わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌
11
2016.11 NO.445
初冬号
第68巻3号

運動会　「くすの木ソーラン」

運動会のメイン種目の一つが、3・4年児童による「くすの木ソーラン」です。勇ましいかけ声とともに全身を動かして力一杯表現しました。躍動感のある身のこなしと、息を合わせた動きに、地域の皆さんや保護者の皆さんから、大きな拍手をいただきました。

則武地域のシンボルキャラクター「くすっぴー」

「くすっぴー」は、学校のシンボル「クスノキ」の妖精です。学校行事や地域のイベントなどに登場し、子どもたちを励ましてくれます。

岐阜市立則武小学校（ぎふしりつのりたけしょうがっこう）

●【学校の教育目標】

豊かでたくましい子

学校のたからもの

【はしましりつなかしましょうがっこう】

羽島市立中島小学校

●住所　〒501−6318　羽島市上中町沖2100番地
●TEL　(058)398−2973
●FAX　(058)391−7159
●メール　nakashimae@hashima-gifu.ed.jp

●児童数 239名

学校の教育目標　ほほえみと　たくましさをもつ　中島の子

～ 思いやり　学び合い　きたえ合い ～

沿革・地域の自然や風土

本校は、昭和十六年に設立された上中島国民学校と下中島国民学校を前身としています。昭和二十二年には、前身の二校が上中島村立上中小学校と下中島村立下中小学校と改称されました。その後昭和二十九年に再度羽島市立上中小学校と羽島市立下中小学校と改称され、昭和三十五年にこの二校が統合され、羽島市立中島小学校として創立され、現在に至っています。

校区には、円空上人生誕の地「はしま」で最も多くの円空仏が安置されている中観音堂・羽島円空資料館があり、地域学習に役立っています。また、校区の多くは、田園に囲まれており、休耕田を活用した「フラワーフェスタ」が、ヒマワリやコスモスが咲く季節には開催され、多くの写真家や来園者が訪れにぎわいをみせています。

校区内への他地域からの転入がほとんどなく、三世代同居家庭が多く、学校教育に理解と協力があり、教育に力を入れてきた地域です。学校行事を推進するにあたっては地域の方を講師として招聘することも多く、小学校同窓会組織が地域に根付き、同窓会事業が毎年行われ、学校への期待や関心が高い地域です。

「学校の宝物」活動の内容

本校では、自慢づくりとして「心のクローバー」に伝統的に取り組んでいます。

- 心を交わす「**あいさつ**活動」
- 心を磨く「黙ピカ**掃除**」
- 心を鍛える「**授業**」
- 心を温める「**ボランティア**活動」

以上の四つです。

この四つの活動について紹介します。

1 学校のたからもの　あいさつ

「おはよう!」「おはようございます!」元気なあいさつと共に、次々にハイタッチが二十人～三十人ぐらい、多い時には五十人近く続きます。これが毎朝の中島小の児童玄関の光景です。児童会の企画委員が中心となって、誰が参加してもよく、誰もが気持ちのよい朝のスタートを切れるようにという願いのもと始められたのがこの「アイタッチ運動」です。先生方も教室に向かう途中に参加することもありますし、授業参観の折には、保護者を「アイタッチ運動」でお迎えしたりもしています。

朝のあいさつだけではありません、授業のはじめと終わりのあいさつも、廊下で来客者とすれ違うときのあいさつも元気に明るく誰もができるよう頑張っています。

おかげで、保護者からは、「声だけでなく、手と手でも触れ合ってあいさつをすることで、心が通い合えますね。」という声もいただいています。

▲アイタッチ運動の様子

2 学校のたからもの　掃除

「黙ピカ掃除」は、中島小の掃除の合言葉です。昼休み時間が終わる頃になると、掃除への移動が始まります。美化委員が、「黙って移動してよ。」「黙って掃除してよ。」と、呼びかけます。始めの会を終えると黙って、ゴミ一つなくなるようにきれいにし、ピカピカになるよう磨きます。二学期からは、各学級で分担していた掃除場所を、縦割り班ごとに分担して掃除をする日も設定しました。高学年のお兄さんやお姉さんの後姿を見て低学年・中学年の児童の掃除の姿も向上しつつあります。高学年の児童も同じように、「後輩の手本にならなくては…」という意識もあり、立派な姿を示し相互によい影響をし合っています。

▲掃除の様子

3 学校のたからもの　授業

全校朝会で、学習委員が聞き方や発表の仕方などを劇で演じ、よい手本として学校全体に広めています。授業中の聞く姿は、他事をしないで聞く、話し手におへそを向けて聞く、反応しながら聞く、自分の考えと比べながら聞くなど学年の実態に応じて様々ですが、話し手を大切にするという意味ではどの学年も共通にして大切に取り組んでいます。

「考えた」「分かった」「できた」と言える授業を児童も先生も目指しています。算数の授業の研究に取り組んでいることもあり、問題が提示されると子どもたちは今までに学習した内容と、この授業で明らかにすることを考えて課題をつくります。今までに学習したことを使って問題が解けるよう取り組みます。隣同士で交流したり、他の考えの仲間と交流したりして自分の考えを確かにしたり、修正したりします。交流は、男女関係なく、誰とでも仲良くできています。授業後半には、この授業で分かったことをもとに難しい問題にも挑戦します。「できた」「楽しい」と自信をもって言える授業を目指しています。

▲授業の様子

4 学校のたからもの　ボランティア

「かんかん火曜日」は、毎週家にあるアルミ缶や牛乳パックを持ち寄る日です。福祉委員が、早朝から児童玄関で活動します。その日は、どの子も袋をかかえて登校します。それぐらい伝統となり定着している活動です。持ってくるだけでなく、持ってきたアルミ缶をつぶしてくれる子、牛乳パックを整頓してくれる子などなど進んで気が付いたことに取り組んでくれます。

また、毎月一回程度「ボランティアの日」があり、先生や各委員会の委員長がボランティアをしてほしい内容と人数を福祉委員に伝え、福祉委員が全校児童に募集し、ボランティア活動を実施するというものです。この日ばかりは、遊び時間を返上して多くの児童がボランティア活動に参加します。参加した児童には、福祉委員から参加シールが配布され、「かがやきノート」に貼り付けます。保護者もこのかがやきノートに目を通して、子どもの学校での頑張りを知ることができ、家庭での会話がはずむようです。

▲ボランティアの様子

最後に

本校では、総合的な学習の時間やふるさと学習において、地域とのかかわりを大切にした体験学習を実施しています。「多くの仏像をよく作ったね。円空さんは心温かい人だね。」「米作りは難しいけれど、私たちが作ったハツシモとってもおいしいよ。」「見渡す限りのコスモス畑。中島の自慢の場所だね。」地域の方々とのふるさと学習には、子どもたちの驚きと感動があふれます。ふるさと学習には、子どもたちの目の前で展開される「本物の力」があります。中島の自然・文化・歴史・人からふるさとについて学び、人々とのふれあいを通して、地域や回りの人々に対して感謝と思いやりの心をもった子どもたちを育てていきたいと思っています。

▲ふるさと学習の様子　「機械田植え」

▲ふるさと学習の様子　「田植え」

▲いちのえだ 田園 フラワーフェスタ「コスモス畑にて」

校歌

中島小学校校歌

作詞　岡本淳三
校閲　各務虎雄
作曲　内本実

一、伊吹おろしに　たえぬいて
おおしく開く　花のかず
希望にもえる　手をくんで
たのしく学ぶ　ひかりの子
われらのわれらの　中島小学校

二、木曽のながれににじかかげ
若あゆおどる　たくましさ
ふた葉のいのちすこやかに
未来をめざす　ちからの子
われらのわれらの　中島小学校

▲ペア学習の様子

学校のたからもの

【きたがたちょうりつきたがたみなみしょうがっこう】

北方町立北方南小学校

●住所　〒501−0453　本巣郡北方町高屋分木2丁目23番地
●TEL　(058)320−0088
●FAX　(058)324−5700
●メール　minamisyou@town.kitagata.gifu.jp
●児童数　390名(男子204名・女子186名　H28.8.29現在)

学校の教育目標　夢と智恵をもって共に生きぬく子

〜よく考える頭・思いやる心・たくましい体〜

沿革・地域の自然や風土

本校のある地域は、昭和三十三年に旧生津村から北方町に分村合併しました。現在は都市化が進み、多くのマンションやアパートが点在する新興住宅地域と古くからの地域とが混在しています。

本校は、今年で開校十六年目を迎えました。町ぐるみで取り組んできた「北方町子どもサミットの日」の活動に加え、昨年度より「南っ子を応援する会」や「きたがたサタデースクール」の活動も始まりました。子どもや学校のために進んで力を貸してくださる方が多く、地域に支えられた教育活動を展開しています。

学校のたからもの 1 「四つのきらり」を守る学校

「四つのきらり」とは、あいさつ・時間・くるピタ・だまってそうじの四つです。児童会執行部を中心に、この「四つのきらり」をより本物に近づけるために全校で取り組んでいます。「学期、特に「あいさつ」と「だまってそうじ」に力を入れてきました。

①「あいさつ」の取組み

北方南小学校では、「ハイタッチあいさつ」を行っています。朝、学校に来る時に、お互いにハイタッチをしてあいさつをします。ただ「おはよう」と言ってあいさつをするのではなく、手と手を合わせて行うことで、楽しくあいさつをすることができます。この取組みを通して、あいさつの輪が全校に広まってきました。

また、校門だけではなく、学校の中でもあいさつができる姿を広めたいという願いから、新たに廊下や階段でのあいさつ運動を始めました。あいさつをしながら通れる道、それを「あいさつロード」と名付け、一年生から六年生までのたくさんの児童がこの運動に参加しました。参加した児童の名前やよかった姿を校内放送で紹介したり、一学期の終業式で表彰したりすることを通して、する方もされる方もうれしい気持ちになるあいさつが、全校児童みんなでできるようになってきました。

◀4つのきらり

▲ハイタッチあいさつ

②「だまってそうじ」の取組み

北方南小学校では、学校の内からも外からもきれいにする掃除に取り組んでいます。学校の外では、環境美化委員会が中心となり、毎月0のつく日を「ごみゼロの日」と位置付けて、登校時に通学路のごみ拾いを行っています。

学校内では、低学年と高学年の児童がペアを組んで掃除を行う取組みを行いました。ペアになって掃除を行うことを通して、低学年の児童は高学年の児童に教えてもらいながら、だまって静かに掃除をすることができるようになりました。高学年の児童も、低学年の児童の手本となる姿で頑張り、掃除に取り組む姿を高めることができました。また、この「ペア掃除」の取組みを通して、「高学年の児童が近くで掃除をする一年生の児童を気遣ったり見守ったりしながら掃除をする」など、互いを思いやる姿が多く見られるようになりました。

▲ペア掃除

校歌

北方南小学校校歌

作詞　後藤 左右吉
作曲　丸山 春雄

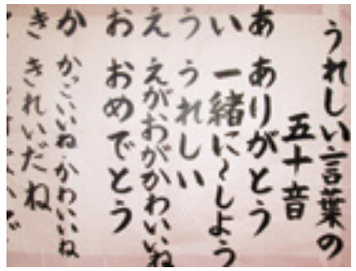
一、花よ　あこがれの　夢に
におう　水仙の花
美濃の平野に　いま　根をはって
笑顔いっぱい　あしたへ伸びる
北方南小学校　生きようともに

二、風よ　ふるさとの　山に
ひびく　友情のうた
伊吹おろしに　いま　肩組んで
力いっぱい　あしたを築く
北方南小学校　歩もうともに

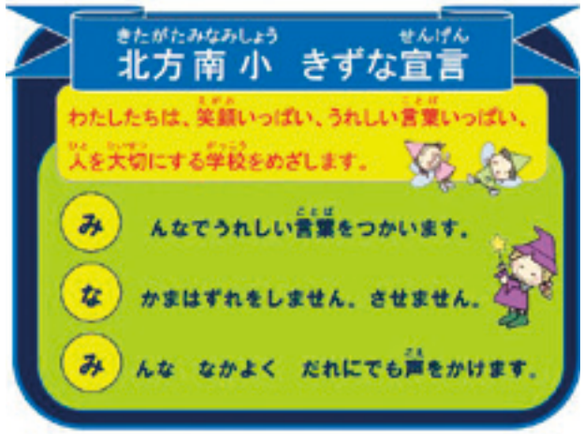
学校のたからもの 2 うれしい言葉が飛び交う学校

北方南小学校では、「笑顔いっぱい、うれしい言葉いっぱい、人を大切にする学校」をめざし、一昨年度「学校きずな宣言」を作りました。学校きずな宣言の内容は、「みんなでうれしい言葉を使います。」「なかまはずれをしません。させません。」「みんな　なかよく　だれにでも声をかけます。」の三つです。この学校きずな宣言を受けて、すべての学級で話し合いをもち、各学級のきずな宣言を作っています。五月の第一回ひびきあい集会では、各学級のきずな宣言を発表し合い、うれしい言葉があふれる思いやりのある学校にしていくことを目指して取り組んでいます。

また、昨年度、児童会執行部が中心となって「うれしい言葉の五十音」を作り、全校児童に紹介しました。これをもとに、人から言われてうれしかった言葉やすてきな行為の内容を全校児童一人ひとりがカードに書いて掲示しました。今年度も、ペア掃除で見つけた仲間のよさやがんばりなどをカードに書いて掲示しています。このように、児童一人ひとりがうれしいと感じた言葉など掲示して全校で取り組むことを通して、互いのよさや頑張りを認め合うことができています。



▲うれしい言葉の50音



▲学校きずな宣言

学校のたからもの 3 「子どもサミットの日」の活動

北方町では、毎月三十日を「子どもサミットの日」として位置づけ、町内すべての小・中学校で、朝の登校時に挨拶運動と通学路のゴミ拾いに取り組んでいます。挨拶運動では、多くの保護者や地域の方も来校されて児童とともに校門に立ち、登校してくる児童にハイタッチして挨拶を呼びかけています。時には、町長さんや町のマスコットキャラクター「ガタローくん」らも来校して挨拶運動に参加していただけ、児童らの大きな励みになっています。

通学路のゴミ拾いは、子どもサミットの日をはじめ、毎月0のつく日に行っています。環境美化委員会が中心となり、通学途中にごみを拾って登校した児童にシールを渡し、自分の学級のところに掲示します。ごみを拾ってきた成果が目に見えてわかり、達成感をもつことができています。今後さらにきれいで住みやすい町、そこに住む人の心まで美しい町を目指して、地道に活動を継続していきます。

▲ごみゼロ運動の掲示物

▲「子どもサミットの日」あいさつ運動

学校のたからもの

【えなしりつやまおかしょうがっこう】

恵那市立山岡小学校

●住所　〒509−7607　恵那市山岡町下手向1831
●TEL　(0573)56−2714
●FAX　(0573)56−3874
●メール　yamaoka-e@ena-gif.ed.jp

●児童数　181名

学校の教育目標

かしこく　なかよく　元気な子

沿革・地域の風土

明治六年、地域のお寺に五つの学校ができました。それぞれの学校は明治十九年までに校舎を新築し、五つの尋常小学校になりました。その後、明治二十九年から明治三十四年にかけて遠山尋常高等小学校、鶴岡尋常高等小学校という二つの学校に統合され、昭和三十九年四月、二つの尋常高等小学校が統合して、現在の山岡小学校になりました。

校区は恵那市の南部に位置し、豊かな自然に囲まれています。寒冷な気候を利用した細寒天づくりが盛んで、全国一のシェアを誇ります。また、陶器や碍子（がいし）の原料となる陶土の採掘も行われ、長い間地元の主要な産業となってきました。

山岡町は「家庭と地域と学校が協力して子どもを育てていく」という意識が高い地域です。地域の人たちは積極的に総合的な学習の時間の外部講師として学校に足を運んでくださり、食育や野菜作りの授業をしてくださいます。また、子どもたちも積極的に地域の行事に参加し、歌舞伎等の伝統芸能を受け継いでいます。

1 学校のたからもの　笑顔のあいさつ

本校では、子どもたちが、笑顔であいさつを交わせるようになることを、学校教育目標の具現化の一つの指標と捉えています。

毎週、週の始めの日にPTA運営委員の方の協力を得て、児童玄関であいさつ運動を行っています。このあいさつ運動には、職員や児童会の子どもたちも参加し、子どもたちが仲間や先生、地域の人等だれにでも笑顔であいさつを交わせるようになることをめざしています。

この活動は今年度で三年目に入りますが、年々子どもたちのあいさつの様子がよくなり、それが子どもたちの自己評価にも数字となって表れてきています。今年度は、あいさつの際にできるだけ名前を付けることを意識することで、互いの関係が、より親密なものになるように努力しています。今後もこの活動を継続し、朝から子どもたちの笑顔であふれる学校にしたいと考えています。

▲笑顔のあいさつ運動

2 学校のたからもの　ピカピカ掃除

あいさつ同様、掃除でも学校教育目標の具現化を図っています。

本校は掃除場所ごとに縦割りの班編成をし、多くの掃除場所が一年生から六年生までの異学年集団で掃除に取り組んでいます。上級生が下級生に効率のいい掃除の仕方や上手な道具の使い方を教えながら多くの子どもたちが時間いっぱい働いています。また、下級生のがんばりをしっかりと見ていて、反省会できちんと認めてあげている高学年の子どもたちの姿には、本当に感心します。無言で掃除に取り組み、進んで見つけ掃除を始める子どもたちの姿は、山岡小学校の宝です。職員も子どもたちとともに時間いっぱい額に汗して掃除をし、「率先垂範」の姿を示しています。現在の子どもたちの姿は、連綿と続いてきた職員のそういう努力の賜物であると確信しています。

▲縦割り班でピカピカ掃除

3 学校のたからもの　読書

本校では、「学習・情報センターとしての機能が充実した図書館」づくりを目標とし、読書にも力を入れています。

子どもたちは、個人ファイルをもち、自身の目標（冊数、時間、傾向等）を振り返ったり、図書館祭りでの活動の足跡を残したりして、読書生活の向上に役立てています。また、図書委員会が、書棚の管理や掲示物の作成、図書館祭りの企画、運営等に主体的に取り組む姿も見られます。

教科指導や総合的な学習の時間等に図書館を活用する場面も多く、言語活動によって作成された子どもたちの作品を展示したり、蓄積したりしながら学習に役立てています。

昨年、一昨年と東濃地区の図書館教育賞に応募し表彰されました。今年度もさらに図書館経営を充実させ、最高賞をめざしています。

▲図書館企画“おつきみ”を楽しむ児童

校歌

山岡小学校校歌

作詞　古山 新資
作曲　山本　弘

一、つらなる岡に　黄金色の
きぼうの光　さしのぼる
とうげに立ちて　呼び合えば
東に　西に　こだまする
われらの　山岡小学校

二、夕日の山を　うつす川
みどりの森と　土の幸
ゆたかなめぐみ　ふるさとが
心にいきて　ゆめを呼ぶ
われらの　山岡小学校

三、正しく　強く　すこやかに
なかよしみんな　手をつなぎ
学びを深め　あたらしい
日本の空に　はばたこう
われらの　山岡小学校

4 学校のたからもの　地域の特色を生かした体験活動

冒頭でも紹介しましたが、山岡は細寒天づくりや陶土の採掘等の産業が盛んです。そこで、毎年総合的な学習の時間に地元の寒天業者さんのところに出かけていき、寒天を使った心太（ところてん）づくりをしています。また、図工の時間に、地元で採掘される陶土を使って粘土作品を作り焼成しています。さらに、林業に関わる間伐体験やシイタケ栽培なども地元の方の協力を得て体験しています。

子どもたちはこうした体験を楽しみにし、意欲的に活動するとともに、ふるさとの特徴やふるさとを発展させてきた人々、ふるさとの歴史について学んでいます。六年間の体験活動を通して地元を愛する心を育み、地元に根付く人材を育てたいと考えています。

▲しいたけ菌打ち体験

▲寒天づくり体験

陶芸体験▶

▲間伐体験

学校のたからもの

【ぎふしりつあいかわちゅうがっこう】

岐阜市立藍川中学校

●住所　〒501−3134　岐阜市芥4丁目157番地
●TEL　(058)243−1019
●FAX　(058)243−1071
●URL　http://cms.gifu-gif.ed.jp/aikawa-j/
●メール　gichu11@aikawa-j.gifu-gif.ed.jp

●生徒数 374名

学校の教育目標　**自立共生**

〜自ら　仲間と共に　よりよく〜

沿革・地域の自然や風土

本校は、昭和二十二年五月に稲葉郡学校組合立藍川中学校として開校されました。昭和三十三年には、芥見村が岐阜市へ合併し、岐阜市立藍川中学校と称され、現在に至ります。

その後、生徒数の増加に伴い、昭和五十七年には藍川東中学校、昭和六十二年には藍川北中学校が新設され、分離しました。現在は、芥見小学校と岩小学校の卒業生が、本校に登校しています。

本年度は、創立七十周年。十一月二十六日(土)に「藍川中学校創立七十周年記念事業」を実施します。

校区は、丘陵が多く残り自然豊かな田園地帯と、近年の都市化による商業・住宅地帯が一体となった地域となっています。地域フェスティバルや市民運動会などの地域行事に、本校生徒や地域の方がボランティアとして多数参加し、地域を盛り上げています。

本校のたからものは、何といっても本校の生徒の姿です。何事にも真摯に向かう態度と礼儀正しさが、今年も落ち着いた校風をつくり出しています。

ここでは、このような生徒の姿を育む藍川中学校の伝統的な教育活動とコミュニティ・スクール化に伴う新しい教育活動を紹介します。

1 学校のたからもの　宿泊研修「ふれあい教室」

毎年、春に宿泊研修「ふれあい教室」を実施しています。この研修では、学年ごとにテーマを設定しており、豊かな学習経験を通して、学級・学年間の仲間関係を醸成しています。

○一年生　ふるさと岐阜の自然と文化を学ぶ

一年生は、山と水の豊かな岐阜県郡上市で学習します。山里登山や野外炊事、大縄跳びや郡上踊りなどを通して、仲間と共に一つのものを創り上げる素晴らしさを体験する活動を行っています。また、郡上の城下町の一部が、重要伝統的建造物群保存地区(国)に指定されており、グループでこれらを巡りながら、これまで培ってきたすばらしい岐阜県の文化を研修しています。中学校に入学して間もない生徒が、この活動を通して新しい仲間関係をつくる大切な研修となっています。

▲1年ふれあい教室

○二年生　海を舞台に仕事を学ぶ

二年生は、福井県三方上中郡で漁師の家に宿泊し、漁師生活の体験を通して、「仕事」を学びます。この活動で、時間を守ること、自分の役割に責任をもつこと、仲間や家族を大切にすることが大切な要素であることに気づくとともに、学校生活で大切にしていることと同じであることを実感しています。

▲2年ふれあい教室

○三年生　広島を舞台に世界平和を学ぶ

三年生は、広島県で戦争を知る人・もの・施設に触れることで、世界平和を学びます。

戦争を体験した方から、戦争当時の話を聞いたり、原爆ドームや平和記念資料館の資料に触れたりすることで、生徒たちは現在の平和な生活に改めて感謝するとともに、今後の世界平和を強く願います。また、平和記念公園での平和セレモニーでは、平和のために何ができるかを真剣に考え、原爆の子の像を前で「HEIWAの鐘」を学年合唱し、平和宣言と共に折り鶴を捧げました。

▲3年ふれあい教室

2 学校のたからもの　合唱交流会

毎年、秋にこれまで育んできた学級・学年の文化を発表する場として、全校合唱交流会を行っています。どの学級・学年でも、すばらしい歌声が披露され、体育館が感動で包まれます。

また、今年の全校合唱曲は、NHK復興支援ソング「花は咲く」となりました。被災地の早い復興を願い、歌で思いを届けます。

▲合唱交流会

校歌

藍川中学校校歌

作詞　藤井　甲子郎
作曲　河野　信一

一、朝霧晴れて千町田に
平和の光うららうらと
かげさしくれば鳴り渡る
自主創造の鐘のもと
つどう学徒に幸やあれ

二、流れゆたけき長良川
岸の緑によどみつつ
たたうる藍は深けれど
世に出藍のほまれある
学徒の才に如かざらん

三、究理の道は遠くとも
男女の別ちなく
燃ゆる理想におのがじし
まなじり高く胸はりて
文化の樹立誓おかな

四、ああ人の世の幾そ度
栄枯の夢をよそに見て
濁り染まむ藍川の水の
面に姿正しつつ
学びの道に励まなむ

3 学校のたからもの　掃除活動

本校は、生徒数三七〇人を超える学校ですが、掃除開始のチャイムと同時に、話し声一つなく黙々と掃除をする生徒の姿が見られます。時間を意識した心と自分に与えられた役割を果たす責任感がこの姿を生んでいます。

▲掃除

4 学校のたからもの　地域で地域の子どもを育てる仕組みが充実

ア　小・中学校のPTAが連携して「学習検定」

小・中学校のPTAが連携して、英語検定、数学検定、漢字検定を実施しています。この事業は、地元の小中学生の才能を開花することと学習に関心の高い地域づくりを目的として、平成二十七年度よりスタートしました。昨年度は、一〇〇名以上の小中学生が合格し、キャリアを積んでいます。

イ　地域で生徒の学習サポート「土曜寺子屋」

平成二十七年度より地域在住・在勤の社会人や教員を目指す大学生ボランティアが、土曜日に生徒のわからない教科を教える「土曜寺子屋」を開校しました。

この寺子屋は、「地域の子どもは地域でサポートする」を合言葉に、地域住民と本校職員で組織する藍川中学校支援推進委員会が主催となり実施しています。生徒からは、「丁寧に教えてもらえるのでうれしい」「いろいろな教材が用意されて、勉強に集中できる」と大好評です。

▲土曜寺子屋

ウ　地域みんなで防災訓練DIG

実際に災害が起こった時に、本校の生徒は、この地域での活躍が大きく期待されています。

そこで、昨年度より災害を予測して対策を考える災害図上訓練DIGを実施しています。

本校と災害対策の専門家である岐阜県警察本部や岐阜中消防署、自治会連合会が主催者となり、地元の消防団・水防団や防災有資格者をアドバイザーとして迎え、専門的な情報を提供していただく中で、防災に係る質の高い学習を展開することができました。学習者は本校生徒と地域の方々で、地元の予想できる災害とその対策について、一緒に考えることができました。

▲DIG

Contents

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌
平成28年11月1日発行／第68巻3号
通巻第445号

わが子のあゆみ

2016.11 No.445 初冬号

表紙　岐阜市立則武小学校

学校のたからもの　1
羽島市立中島小学校／北方町立北方南小学校／恵那市立山岡小学校／岐阜市立藍川中学校

わが家の宝物　長森東小学校PTA　会長　小酒井大祐　9

特集・「子育て　大切な視点」後編　11
講師　安藤大作さん（安藤塾塾長　元三重県PTA連合会会長）

家庭教育応援団！㉓　17
実践紹介1　高山市立国府中学校
実践紹介2　郡上市立大和第一北小学校
実践紹介3　可児市　保護者以外にも対象を広げた家庭教育学級

シリーズ「療育」㉘　岐阜県立岐阜本巣特別支援学校　19

お弁当の日　垂井町立垂井小学校PTA　21

保健室ノート　瑞浪市立釜戸中学校　養護教諭　鈴木純子　23

私の先生㉓　岐阜市立岐阜中央中学校　教頭　古田浩章　25

子育て半生記　郡上市立大中小学校PTA　会長　石神良行　27

山県市・本巣市のPTAふれあいニュース［vol.3］　29
山県市立高富中学校PTA
山県市立伊自良中学校PTA
本巣市立外山小学校PTA
本巣市立根尾小学校PTA

私が出会った1冊の本【続28】　31
瑞浪市立釜戸小学校　吉村美信
大野町立大野中学校PTA　副会長　白木善博

わが家の約束　33
中津川市立坂下小学校PTA　会長　葛西将光
瑞穂市立巣南中学校PTA　会長　林 孝美

子の思い・親の願い・教育の窓　35
子の思い
山県市立高富小学校　3年　鷲見 心
関ケ原町立関ケ原小学校　6年　上條孝太朗
岐阜市立東長良中学校　3年　田中 豪
親の願い
大垣市立宇留生小学校PTA　会長　木村幸弘
下呂市立竹原中学校PTA　会長　曽我昭和
教育の窓
土岐市立妻木小学校　教頭　溝口喜久
関市立小金田中学校　教諭　竹智丈裕

親子ではてな　40
インフォメーション　41
お試しクッキング　岐阜県学校栄養士会　42
豆腐の白玉とさつまいものココナッツミルクがけ

ふるさとの伝承　43
土岐市立泉西小学校

きらり！キッズ！　45
大垣市立青墓小学校

夢中！熱中！我らが部活　47
飛騨市立神岡中学校

私たちのPTA　49
川辺町立川辺西小学校PTA

わが家の宝物

長森東小学校
PTA会長　小酒井 大祐

子ども達の未来のために

我が家の宝物といえば、やっぱり子ども達です。子どもから大人へと成長していく変化の時期の十二歳の女の子と、まだまだやんちゃ盛りな五歳、二歳の男の子です。

忙しい中で子ども達との時間を作るのも厳しいのが現状なので、圧倒的にママ人気ですが、子ども達との時間が取れる時は、自分も子どもになったつもりで思い切り子ども達との時間を楽しみます。

子ども達がいる事で、日々頑張れることがたくさんあります。

子ども達が望む事、わがままとかではなくて、やりたい事を親の都合でダメだと言いたくない。子ども達に世界を見せたい。本物を見せていきたい。

これが我が家のテーマで、世の中の当たり前が必ずしもホントの事ではない事を小さくても教えています。

例えば口にするもの一つとっても、添加物を取らないとか水道水は飲まないとか、なぜなのかをちゃんと教えます。

子ども達の未来のために、今できる事を先ずは家族から、そしてその輪が広がれば最高です！

特集・第三十七回定期大会記念講演より

「子育て 大切な視点」 後編

講師・安藤 大作さん（安藤塾塾長・元三重県ＰＴＡ連合会会長）

包丁を持った長男

あるお母さんが相談をしたい、と言ってきました。

夜寝ていたらふと気配がするので目を開けたら、長男が包丁を持って、恐い顔して私の枕元に立ってた。夜が来るのが怖いんです。尋常じゃない顔をしてました、どうしたらいいでしょう。という訳です。

じゃあ僕、本人と話しますわ。

本人と会いました。

すると「だって先生、あいつ（母親）、笑わないんですよ。」

彼の話を聞いていくと、こうなんです。

彼は小学校五、六年生の頃から中学受験をしろと、母親に言われた。そして髪の毛を引っ張られて「勉強せんか！」とずーっと脅された。でも彼は中学受験を失敗しました。親の言うことを聞いてたけど報われなかった。その事に対する親への恨みもある。そして自分の思い通りの時間を過ごせなかった。脅し、恐怖、そういうものにずーっと突き合わさせられてきた。それをやってる親が、今毎日全く笑わない。何なんや、この親は。

という気持ちが、中学校三年生になってきた時に、その子の中で憎悪になって、そういう行動に出た。

母親の話

その後、お母さんと会いました。

お母さん、彼こやって言ってましたよ。笑わないんが、いやなんですって。中学受験の時、彼、こうだったって言ってましたよ。

そうですね、私、笑わないです。中学受験もその通りでした。もう、あれぐらいやらなと思いました。あの子は、公立中学行っても全然勉強せえへんし。先生、笑えって言いますけど、こんな話笑えませんよ、正直な話、もう腹立ってしょうがない、あれには。

お母さん、なんでそんなにムキになるんですか？と、今度はお母さんの話を聞き始めました。お母さんには妹さんがみえました。妹さんの方が先に結婚された。長女であるお母さんは父親に認められたい、褒められたい。だけど妹の方が先に結婚して父は喜び、初孫も妹が先で父親は大喜び。姉である自分は結婚も子どもも後やった。父親の喜びも妹と比べると不満やった。子どもも妹の方が先に学校へ行き、妹の子の方がよく出来た、より愛されているように思えた。だから、私の子どもは負けてほしくなかった。頑張って欲しかった。私の頼みの綱やった。この子が頑張れば、私も認めてもらえると思った。

その気持ち、そのまま息子さんに言うたらえええと違いますか？謝りましょう。そうやったって、言いましょう。親だって、生まれた時から今までいい事ばっかりあったわけじゃないし、イヤやったこともあるし、悔しかった、腹立ったこともあるし。それを、あんたに全部ぶつけてしもたということで、謝りましょう。自分の問題を子どもの問題にしてしもたんやから、ごめんて言いましょう。

母親の父

でも、これを言う前に、お父さんに会いに行きましょう。妹ばっかりで自分には劣等感がずっとあって、寂しかった。本当はお父さんに抱きしめてほしかったし、褒めてほしかったし、認めてほしかったし、よしよしして欲しかった。お父さんに言いに行きましょう。それは、私が母に言ったあの経験がベースにありますから、お父さんに言いましょうって。

それで、お母さんは行きました。そして後日面談で、彼女はこう言いました。

先生、行って良かった。お父さんに、頭なでなでしてもうた、ハグしてしてもうた。お父さんに受け入れてもうた。先生、私、何かが解けました、心の中で。まだ完璧じゃないけど、ちょっと解けました。お父さんに、何か認めてもらった。

その後、しばらくして息子と会いました。

先生、最近、オカン結構笑うんですよ。何か、笑ってくれるようになりました。それから、いろいろ話して、何か分からんけど「ごめん」言うて、オカン謝って来たんですよ。

それ以来、問題は無くなりました。

押し付け

高校二年生の長男がいます。小さい頃から、僕は長男にこうするべきや、ああするべきやと、ずーっと言ってきてしまいました。

年長の時のランドセル、イオンのランドセル売り場。どれがいい？持ってきたのが緑色のランドセル。何で緑やねん、すると今度は、黒です。エーッ、黒！黒か。いっぱい色あるのに何で黒や。お前な水色にしろ、水色がええぞ。うん、わかった。それで水色にしました。

三、四年生の頃かな、好きな自転車買ったる、何がええ？黒。黒？黄色にせい、黄色やったら買うたるわ。じゃあ、黄色でええわ。

レストランへ食事に行きます。ハンバーグ屋さん。何食べる？スパゲッティ。何でスパゲッティなんや。ここはハンバーグにしろ。

こうしろ、ああしろ。もう本当にいろいろ言うてきました。

そして小学校五、六年生。お前、受験したらええんちゃうか、中学受験。県外の学校で寮生活ええぞ。寮生活せえ、どや。そうやな。お前ほんまにそう思うか、それお前の意志やな。うん、まあ。よっしゃ、そうせい。で、県外の私立に行きました、寮生活。

一年後、寮長から電話です。安藤君は、寮の規則あまり守ってくれないって。帰省した時、お前寮長から電話あったんやけど、規則守らんて、どう言うことや。ルール守られへんかったら、やめたらええんちゃうか。

そやな、あそこに居っても、僕は…

それで結局やめました。それで地元の公立中学へ入りました。半年後、学校の先生から電話。言い難いですけど、はっきり言いますけど、校内一のワルです。違う所からも耳に入ってきました。アイツは市内でもけっこう有名や。

全く僕は、そんなふうには見えてなかった。

ＰＴＡ会長の子どもが市内でワルって、お前マンガやないか、やめてくれ。俺しかも、塾やっとんのやぞ。

放っといてくれ。

放っとけへんやないか、お父さん困るねん。

それでも最後中三の時、頑張りました。進学校に入りました。でも、ビリか二番目。底辺です。

その頃、息子と何を話していいか分からなくて、お互いがツッパリ合ってる感じでした。

しばらくすると、彼は学校に行くと言って、全然行っていないことが判明しました。

謝る

そんなことが判明して、私は彼と数時間、何度も話しました。もちろん、怒るとか説得するとかいうより彼が何でそうするのか、彼の気持ちを聞きました。自分の気持ちも、対等に話したつもりです。そして、僕自身謝る所がいっぱいあって、彼に謝罪しました。

私は中学生の時に身長が一四〇cmくらいでした。野球部に入って、打ってもパワー不足で、全く外野にボールが飛ばない。常に補欠、三年間ベンチ。僕は両親もいないから、脚光を求めましたけど、三年間ベンチでみじめな気持ち、いろいろ屈辱でした。

息子が小学校の時、サッカーのスポ少に入りました。その時は、活動に深く関わりませんでした。それが中学生になって彼が部活に入ったら、とたんに僕は自分の中学の頃が重なり始めて、

今日、試合出たか？

出てない。

それはいかん、出な。もっと頑張らな！

今日は前半から出たか？

いや、今日は後半からや。

いかん、未だ頑張りが足らん。始めから出な。

何で中学になったら、そんなに言うの？

あかん、中学時代はすごく大事なんや。

息子に、何か自分の復讐をするかのように、こうしろ、ああしろと随分言いました。そのことを、謝りました。

向き合って話す

その話し合いが何回か続いた後、私は最近、彼とスーパー銭湯へ行く機会が多くなりました。一緒に湯船につかることです。それまでは男同士の、何か変なカッコウ付けてたんですが、彼に何か勇気が出てきたように感じるようになりました。何か、対等に話せるようになったのかもしれません。

やがて彼は自分から言ってきました。一年間休学して、カナダの高校に行きたい。

お前、それは無理やろ。ただの現実逃避やないか。という思いが、ここまで来ました。心配で心配でしょうがない。無理や、と言いそうになりました。だけど、自分から言ってきた話なので、よくよく話を聞いて、私たち夫婦も彼を支援することに決めました。再来月、彼は出発します。

不安は一杯あります。世間からもいろいろ言われます。学校もビリで、学校も行ってなくて、ワルで、今度はカナダ?アホと違うかあの家。でも、そんなことは今、問題ではありません。

心配です。そんな甘いものじゃない。お前には無理だ。と何度も言いたくなります。でも言いません。彼の選択です。彼が苦労すればいい。それも彼の課題です。私たちは支援することしかできません。彼を信じ切るのが私の課題です。

普通に親と話したい

私の塾に高校生が数百人いますので彼らにアンケートをとって、本音を聞いてみようと思いました。

彼らは、親と話をしたいと思っているか。親と話をしたくないと思っているか。皆さん、どう思われます?

八割の子どもたちは、親と話をしたい。二割の子どもたちは、話をしたくない。これが答えです。だけど、話をしたくないその理由は、話をしても「こうしろ、ああしろ。こうするべき、ああするべき」で、話が一方的でワンウエイになる。だからしたくない。だけど、アホみたいな楽しい話、日常の明るい会話ができるなら、それだったら話がしたい。

話したくない子の理由は、いろいろ親が思いを乗せて来て、感情的になってきて、めんどくさいとか、自分（親）の都合ばかり言ってこちらの心には響かない。どうせ認めてくれないとか、押し付け系とか、書いていました。

また、他の子はもっと頑張ってるっていう比較。これしたの、あれしたの、あれ出したのと言うチェック。それでいいんじゃない、って言う投げやりな言葉。なんでもっと出来ないの、っていう何で系。そういうのが、イヤ。話したくない理由です。

ごめん・ありがとう

言ってほしい言葉の一位は、なんと「ごめん」。それから「ありがとう」。一人の人として、扱ってほしいということです。「次があるさ」「大丈夫」「お前ならできる」など応援・励まし系ですよね。

そして、同じことを言っていました。

十才の頃までは、親とどんな話でも出来た。身近なことを話せる関係だった。笑ってできた。だけど今は、そんな話が出来なくなった。私と息子もそうでした。

子どもたちは、明るく他愛もない話をしたい。刃物の子は、笑わないから刺そうと思った。そんなに俺は悪いのか。お母さんが、すべて思い通りにしたかっただけやないか。親自身の、過去のリベンジで子どもに向ってるんやないか。普通に機嫌よくしてほしい。

これがアンケートの結果でした。

親として自分の癖を知る

人間、誰しもパターンがあります。

子どもが生まれたら「とにかく私がやらないかん」「頑張らないかん」。やらなくてもいい事までやり過ぎてしまうのかもしれません。

それは、その方のパターン、癖。それを自分が知っておくことなんです。

それはいけないのではなくて、私にはそういう癖がある、と知っておくこと。癖は始めからあるもんじゃなくて、後から付いたものですね、アクセサリーみたいなもんです。アクセサリーやったら、癖でも取り外しができますよね。

でも意識をしていないと、「私はそういう人間なんだ。世話焼きの人間なんだ。以上です。世話焼きは細胞の一部です。」と。そこまで言いきってしまう無意識は取り外しができません。知らん間に、やり過ぎてしまいます。

子どもは態度、トラブル、言葉で教えてくれる

意識をすれば、それは癖ですから、アクセサリーですから「あかん、これは言ってはダメ」と、コントロールできます。このような癖、パターンはイカンと言ってるのではなくて、意識をすることなんです。

癖って、目に見える癖もあります。だけど、心の癖は目に見えない。だから、自分がこの状態になっているって言うのは、自分としては分からない。心の癖は、誰も指摘してくれない。

けど、一人だけ指摘してくる人がいます。それはわが子ですよね。わが子は、親の心の癖を指摘してきます。態度で。トラブルで。そして時には、言葉で。

だから、子どもが起こす態度やトラブル、言葉をきっかけに、自分の過去を振り返り、自分をみつめてほしい。

そして、無駄にいらいらしたり子どもにぶつかってしまうのは、一体なぜなのか。何処から来るのか。自分は何が不満なのかを考えてほしい。

真面目な子育てプレッシャー

ある雑誌にこう書いてありました。

親って、何時からそうなったのか。

それは子育てに真面目だったから、頑張ってきたからそうなった。赤ん坊の頃は「この子の命を守りたい」「健康に育てたい」ということに必死だった。

少し大きくなってくると、「ちゃんとした子にしなければならない」というプレッシャーが加わってきた。外出先で子どもが騒いで、親である自分が白い目で見られるのではないか?ちゃんと挨拶出来る子にしなければ、親である私がしっかり教育していないではないか?

しつけの意味があるにせよ、いつも顔の見えない何かの圧力を感じることが多くて、漠然とした怯えがあった。

困るのは子?親?

やがて子どもが学齢期になると、評価が「出来るか、出来ないか」になってくる。掛け算の九九が出来る、出来ない。もしも学校で面談があって、先生から「九九が分かっていませんね」と言われると、（ご自宅で何とかしてください）と言われているように感じる。「忘れ物が多いですね」と言われると、（親がルーズなのではないですか）と言われているように感じて、そこから逃れたい、言われたくないために、子どもをどんどん追い詰める。

ある意味、真面目っていうことですね。子どもの出来不出来が、親の通信簿となってはね返ってくる。だから、出来ないとかちゃんとしないことに怯えて、頼むでやってくれよ。出来て当たり前、出来てもらわんと困る。というようなプレッシャーになっていく。

誰が困るのか?親が困る訳なんですね。親の通信簿が悪くなる。そういうものに囚われ過ぎているのかもしれません。

リベンジ

そういう不安を自分の中で知れば、突き止められたら、意識をすることが出来たら、九十%は解決し始めているのと同じだと思います。

人間は完璧じゃないし、子どもも完璧な親を求めている訳ではない。親が素直に自分を知ればいい。素直になればいい。子どもにアレコレ言うくせに親は出来てないのに、出来てるかのように正当化して、理論ぶって。そういう親に、子どもは一言モノ申したいだけなんです。

大人だからとカッコつけずに、謝る時は心から謝ればいい。子どもは親がそんな態度になっていただくことを望んでいます。そういう親と対等な関係でいられることによって、自分に自信と勇気が生まれるんです。思春期は特に。

逆に親が大人ぶって謝らなかったり、大人ぶってて子どもだけがおかしい、子どもを何とか変えないといかん、というふうにすると、子どもはどんどん自信を失います。

知らず知らずに親が過去のリベンジをしてしまって支配すると、子どもは無力化する。子ど

もは無力化されたくないから、十才を超えると反抗し始めたり、不幸探しとかいろいろ出てくる。

言葉を食べる「つ」の付く子

みなさん、「つ」の付く子どもは、神様の贈り物って聞いたことありますか?

五つ、六つ、七つ、八つ、九つの「つ」ですね。十才になると「つ」は取れます。十才までの「つ」の付く子どもと言うのは、「親の独り言を食べる」と言います。なぜなら、「つ」の付く子どもと言うのは、保護者がいないと生きていけないから。

ある意味、親は独裁的になれるし、独裁的に子どもに振舞う中で、時には言ってはいけない言葉も言ってしまう。

例えば親同士が、もうすぐ運動会やな。安藤さんの子は足が速いでいいなー、アカンアカン、ウチの子なんかドンくさいし足遅い、って謙遜して言う。だけど、そこに子どもがいる。(へえー、そんなふうに思っとるんや。遅いと思っとるんや、ドンくさいと思っとるんや)。

いいとか悪いとか、親が謙遜して言っているとか子どもは分かりませんから(ああ、自分はそう思われてるんや)と、言葉をそのまま食べます。

言わない方がいいのに、言ってしまう。

「あーお母さん、たまにはお父さんとかアンタ等と離れて一人になりたいわ」「あー、アンタ等のご飯、今日も作らなイカンわぁー」

子どもの意欲を潰す親の勝手

特に、言う通りになりやすい子どもに、親は基準じゃなくて機嫌で怒ってしまいます。

例えば「早く食べなさい!時間が無いのに、ゆっくり食べとったらアカン!」。時間のある時は「アンタ、もっとゆっくり食べなさい、よく噛んで」。どっちなんや。十才までの子は分かりません。親の都合を子どもは分かりません。だから、今日も怒られた。子どもは自分を責めます。親の悪口は言いません。僕がイカンのや、だから怒られた。

五才の子が積み木を積んだ。お母さんは横から「わー、すごい」。子どもは、ここまで積めた。もう一回積んでみたい、と思ってガッシャーンと壊した。お母さん「何で壊すの!まだ写真撮ってないのに!」と怒る。子どもは、何を怒られているのか分かりません。僕が悪かったんや。ただ、作り直したくて壊しただけなんですけど、怒られてもうやる気が無くなってくる。根気も、もう一回という意欲も無くなって、積み木をやらなくなる。そこで親は「十才過ぎてもアンタは根気や粘りが無い。何でアンタはー」となる訳です。

自分に長所はある?

これもアンケートです。アメリカ・ドイツ・フランス・イギリス・韓国・スウェーデン・日本の七カ国の若者で、「自分には長所がある」と思う人の割合を調べた。アメリカ九十五%、ドイツもフランスもイギリスも九十%以上、韓国とスウェーデンも九十%手前、日本だけが六十%台。自分に長所がある、と思う人ですよ。ということは、三十%の人は自分に長所が無いと思ってる。

これを見て、僕の子どもはどう思ってるのかなって思いました。ひょっとすると、何一つ長所が無いと思ってるのかなと。それは、もし思ってるとしたら、この前までの真ん中の娘はそう思ってたのかなと思いました。

それは、その子の長所を語ってあげる人が、その子の周りにいなかった。いるけど語ってこなかった。親自身も、自分の好い所、長所を聞かされて育ってこなかった。

親も、子育てプレッシャーというのがあって、逃れたいから子どもに機嫌をぶつけてしまったのもあると思います。

言い過ぎない

大人同士でもそうですが、子どもにも言い過ぎてはいけない、ということがあります。

例えば、子どものチャック(社会の窓)が開いてたとする。そんな時、みなさんは息子に何と言いますか?

一番は「チャック、開いてるで」。事実ですね。二番は「チャック、開いてるで。変やぞ」。これは感想ですよね。三番は「「チャック開いてるで、変やで。だらしない」。評価ですよね。四番目は「チャック開いてるで。変やで、だらしない。閉めたら」。提案ですよね。そして「チャック開いてるで。変ちゃうかな。だらしない。閉めたら、閉めな」。命令ですよね。

私は、十才超えたら二番までやと思います。チャック開いてるで―事実。変やと思う―感想。それで終わり。事実だけでもいいんです。子どもだから、感想も。他のことでも同じやと思うんです。十才以上には、特に言い過ぎないことやと思います。

聞きたくない言葉

三重県PTAで、こんなアンケートを取りました。一番やる気が無くなる時はいつですか?中学生に聞きました。

一、自分が親にめっちゃ叱られた時
二、夫婦喧嘩見た時
三、親がどこかの誰かの悪口を言ってる時

何番やと思います?

答えは三番でした。人の悪口言うなって子どもに言っといて、自分が言うとるやん。十才をこえると冷静に見ていて、その姿がシラける、って言うてました。

お父さんお母さんはそんなんやのに、何でそんな親の言うことを聞かなあかんの?シラけるわ。と言っていました。

一番聞きたくないのは、おじいちゃんおばあちゃんの悪口。学校の先生の悪口も聞きたくない。そのような悪口を自分はなぜ言うのか。そう言う親は自問自答する必要があると思います。

子どもが教えてくれる

最後になりましたが、この講演の目的は「親が自分自身の無意識に気づく」ということです。あ、こういうとこあるな。親の無意識で、いつの間にか子どもが傷つけられてしまう。子どもって伸びる生き物で、もともと伸びるのに、どうしてもその邪魔をしてしまうのが親の無意識。

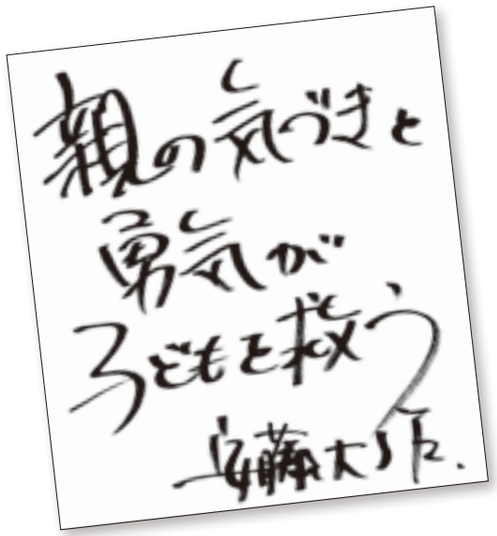
親も子どもが可愛いからなんですけど、その無意識は人から指摘されると、耳の痛い話でもあります。でも、痛いツボは圧した方が治ると、よく言います。ただ本当のツボと違って、無意識という心のツボは見えません。目には見えないのに、自分の子どもは、その痛いツボを教えてくれます。時には圧してきます。

痛いです。でも、そのツボを圧すために生まれてきたのが、子どもだと思います。だから親は、有り難くその場を逃げずに、受けます。子どもも身体を張って、そのツボを圧してきます。なぜならお父さんお母さんが大好きだからです。お母さんにもっと楽になってほしいから。今痛いけど、楽になるよお母さん。

皆さんにお伝えしたいのは、誰でも小さい頃から何かしらの傷を負っていて、誰でも無意識に子どもに何かをぶつけてしまっているかもしれない、っていうことです。大人である自分がその無意識の心の癖を考えて、気づいて意識して、そもそも、これは子どもには無関係な話なんや、と自分に誓うということです。

本日は、長時間ありがとうございました。

完



家庭教育応援団！～家庭教育学級取材記～

実践紹介１　高山市立国府中学校

ポイント　○ 睡眠とメディアに関する、各家庭の実態に合わせた「わが家の約束運動」

国府中学校では、保護者と共に「眠育」への取組を昨年度より継続しています。今回の家庭教育学級では、眠育指導を通して生徒の生活向上に取り組まれた、美濃加茂市立東中学校の安藤美紀代養護教諭の話を生徒と保護者が一緒に聴きました。そして、共有された話題をもとに生活改善について考え、「わが家の約束づくり」をしました。

講演会（親子）

わが家の約束運動 在宅取組へ

演題　「睡眠と子どもたちの生活改善」

講師　安藤 美紀代 養護教諭（美濃加茂市立東中学校）

わが家の約束づくり（各家庭で）

①睡眠時間　②メディアを使う時間　③メディアを使う場所、管理場所、使い方
④わが家のルール

1.生徒・保護者が署名をして2部学校に提出。
2.担任・PTA役員が署名して返却。

実践　約束を記入した用紙を家庭内に貼り、意識して生活

保護者の感想

・親も子どもも規則正しい生活習慣への意識を持つことが第一だと再認識しました。親としての声かけも大切だし、子どもの自覚も大切なので、両方が連動したら成果が出ると感じました。
・子どもたちと一緒に情報を共有したことは、家庭でも話しやすいので、よい機会になったと思います。

親子で講演会を聴くという設定により、情報の共有ができ、家庭での約束づくりがスムーズに進みました。また、講演会後、PTA本部役員さんが「わが家の約束づくり」の進め方について説明する中で、『保護者が関心を持ち、家庭で親子の話し合いを持つことを大切にしてほしい』と伝えました。「約束」そのものよりも「家庭内で話し合う」ことの大切さを改めて伝えた上で、取組を家庭任せではなく、PTA役員や担任も応援できる仕組みにした工夫がすばらしいです。

実践紹介２　郡上市立大和第一北小学校

ポイント　○ 講演会での学びを夏休みの在宅取組に結び付け、親子で生活習慣づくり

大和第一北小学校PTAでは、昨年度から、子どもたちの自己肯定感の低さが話題になっていました。そこで、「話そう！　語ろう！　わが家の約束」運動として子どもたちを大いに認め、励まし、「子どもたちの自己肯定感」が高まるような活動のきっかけとなる家庭教育学級を企画しました。

講演会（親子）＋講演会（親）

わが家の約束運動 在宅取組へ

演題　「試してなるほど！ 自己肯定感がアップする生活習慣づくりと学習法」

講師　近藤 真庸 氏（岐阜大学地域科学部教授）

「小学生期における<排便>と<睡眠>に焦点を当てた生活習慣づくりの方法について、まず親が体験し、子どもと一緒に家族で実験！すっきり感のある生活リズムを手に入れよう」という講話内容でした。「できそうだ」「やってみたいな」と参加者の心に響きました。

次ページへ

講演のあと、「生活リズムを見直したい」という感想が多くあったことから、講演会での学びを夏休みの在宅取組に結び付けました。「朝すっきり大作戦」という取組カレンダーを作成して全家庭に配付し、3週間のチャレンジを行いました。

保護者の感想

・最初は半信半疑でしたが、始めて1週間～10日ほどで、本当に成果が出てきました。がんばればできたね、と大いにほめると、息子も毎朝の排便に自信をもつことができたようです。
・夏休みということもあり、ラジオ体操の時間を20分のゴロゴロタイムに置き換えることができました。そのおかげで排便ができるようになり、気持ちのよい朝を迎えることができました。

子どもたちの実態を受けて、PTAが「子どもたちの自己肯定感を高めたい」という思いをもち、「わが家の約束運動」を通して自己肯定感を高めようと、そのきっかけとなるべく講演会を開催しました。見習いたいポイントは、講演会を2部構成とし、前半は親子で、後半は親だけで学びを深める設定をしたこと、講演会後、参加者の感想を踏まえ、気持ちが冷めないうちに在宅取組として生活習慣づくりに取り組まれたことです。

実践紹介３　可児市　保護者以外にも対象を広げた家庭教育学級

ポイント　○ 対象者を保護者以外にも拡大し、多くの方に学んでいただく家庭教育学級

「『発達障がい』という言葉をよく耳にするけれど･･･」、そんな声に応えて開催されました。対象を全ての保護者、祖父母、地域住民の方とし、多くの方に「発達障がい」について学んでいただき、地域みんなで家庭教育を支えるコミュニティづくりができるように、可児市地域振興課が学校や園を限定せず、企画・運営をしました。

演題　「発達障がいって　なあに?」

講師　東海学院大学子ども発達学科　准教授　杉山 章 氏

参加者の感想

・障がいという言葉のイメージは、他の子とあきらかに違うイメージでしたが、そうではないのだということを知った。障がいがある、ないに関わらず、自己肯定感を高められるような接し方を子どもにしていかないといけないなあと思った。
・子どもに対する接し方など勉強になった。子どものよいところをたくさん見つけて、たくさんほめて伸ばしてあげたい。親次第で子どもの可能性は広がると信じて見守っていこうと思う。
・障がいってマイナスイメージだったが、個人の特徴が目立っているだけなのかと思えた。ほめて、認めることはどの子にも大切だと思った。

「発達障がい」を正しく理解しようと、保護者世代から祖父母世代の方々まで、多くの方が関心をもって参加され、熱心に耳を傾けられました。岐阜県家庭教育支援条例にもあるように、家庭教育を取り巻く地域、学校等、事業者、行政その他県民皆で家庭教育を支えていくことが必要です。家庭教育を地域全体で応援する社会的気運を醸成するような家庭教育学級が今後も広がることを期待します。

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！
ぜひご覧ください！！

岐阜県　家庭教育学級　検索

－掲載内容－
・平成23～27年度家庭教育学級の実践
・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅡ（乳幼児期編）」
・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅢ（小・中学校編）」
・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅣ（次世代編）」

お気軽にご相談ください！
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

岐阜教育事務所	☎058-278-3059（直通）
西濃教育事務所	☎0584-73-1111（411）
美濃教育事務所	☎0575-33-4011（441）
可茂教育事務所	☎0574-25-3111（445）
東濃教育事務所	☎0573-26-1111（373）
飛騨教育事務所	☎0577-33-1111（424）

シリーズ「療育」㉘

夢を育て、未来を創る

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

所在地＝岐阜市西秋沢二―三六三―一

1 学校の特色

岐阜本巣特別支援学校は、平成二十年四月、「岐阜県子どもかがやきプラン」に基づき、岐阜市北西部と本巣市に接する場所に開校した知的障がい・肢体不自由・病弱の児童生徒を対象とする三障がい併置の特別支援学校です。開校当初九十四人であった児童生徒数は、九年目を迎えた今年度は二百十一人に増えました。児童生徒の居住地域は、岐阜市・本巣市・瑞穂市・山県市等の広範囲に及び、路線バスや鉄道、スクールバス、自転車、保護者送迎等の様々な方法で通学しています。

校訓は、『夢を育て、未来を創る』を掲げています。「こんな自分になりたい」「こんな目標を達成したい」「こんな仕事に就きたい」といった一人一人の夢を大きく育て実現できるように、児童生徒と保護者と職員が一体となり、限りない可能性に向かって邁進したいという願いを込めています。

2 各学部の取組

○小学部

小学部は、『なかよし げんき まなびあい』を重点目標に掲げ、日常生活の指導や生活単元学習を中心として、健康づくり・身辺処理・生活動作・コミュニケーション能力の向上を目指して取り組んでいます。地域性を生かし、畑での農作物の栽培や買い物学習等の体験的学習を多く取り入れています。また六十人中、三十四人が居住地の小学校で授業を行う直接交流を行っています。

○中学部

中学部は、自分の思いを各々の方法で伝えることができる、最後まで活動することができる、仲間と協力することができる生徒を育むため『伝える 行動する 協力する』を重点目標に掲げています。

そのため、生活単元学習や校外学習、行事等で直接・間接体験を多く取り入れたり、小グループや集団での活動に工夫を凝らしたりしています。働くことへの興味・関心や必要な力の基礎を育むため、週四時間、三つの作業班に分かれて作業学習を行っています。

○高等部

高等部は、将来の生活を見据え、『社会参加と自立に必要な知識・技能・態度の育成』を重点目標に掲げています。

体験的な学習を通して、社会性や勤労観・職業観を身に付けるため、週十時間の作業学習や年二回の就業体験等を行っています。作業学習の中では、校内にある喫茶店で営業を行ったり、地域の施設に清掃に行ったりしています。近隣の高等学校五校とは「交流及び共同学習」で双方の学校に赴き様々な体験的な活動をしています。

3 PTA活動の紹介

執行部と研修委員の合計十六人で実行委員会を構成し、各種活動を運営します。また学校祭の折には学年代表委員にも協力してもらいます。全会員が、年一回以上、ベルマーク集計作業をしています。

①PTAの集い

保護者の親睦を図るために『わいわいガヤガヤ♪おしゃべり広場』を年六回実施しています。高等部が営業している喫茶店の飲み物を飲みながら気楽に子育て等について話をしています。校長先生や部主事先生を交え、学校の活動について話すこともあります。特別企画としてフラワーアレンジメントやアロマセラピー等、保護者自身の余暇活動も取り入れています。

②事業所見学会

子どもの年齢は、七歳から十八歳までと幅広いですが、親の願いは、将来社会の中で自立していくことです。そのため、卒業後の事業所への就労や生活の様子を実際に見学したり講話を聞いたりすることで、現在の家庭生活を振り返り、今後の生活を考える機会とするために、年二、三回、三～六事業所の見学会を実施しています。

③親子防災教室

昨年度から、親子で防災についての意識を高めていくために体験的な学習ができるように親子防災教室を実施しています。活動を通して、子どもの様子を見て、防災について考える機会をもち、生活の見直しを図っていく機会にしてもらいたいと考えています。昨年五月は、実態に応じて防災アニメの視聴、防災グッズ（新聞スリッパ）の制作、ハザードマップ学習等を行いました。十一月には、親子煙道体験と、実行委員が炊き出しをして全校児童生徒に配付をしました。今年度は十月に、小学部は防災バッグを持って親子避難練習や防災クイズ、備蓄品の試食を行い、中学部は寝袋体験、簡易トイレ体験、放水体験、非常食試食等の防災オリエンテーリングを行いました。高等部は、親子で炊き出しや乾物を使った非常食づくり、給水体験を実施しました。

④学校祭PTAバザー

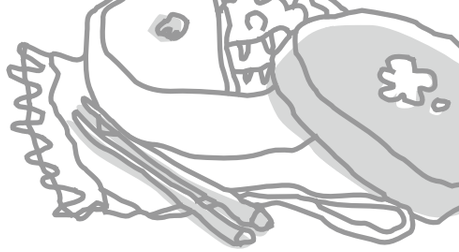
毎年十一月に行われる『ゆめフェスタ（学校祭）』では、PTA実行委員会と学年代表委員とで食品バザーと日用品バザーを実施しています。

また、地域ボランティアや学生ボランティアにも毎年協力をいただいています。高等部の作業製品販売会も同日に行っており、保護者をはじめ多くの地域の方にも来校していただいています。

4 保護者の願い

校内では、子供達とすれ違うと「こんにちは」と大きな声で挨拶をしてくれるので、とても清々しい気持ちになります。保護者からも、きちんと挨拶を返すことで、挨拶の気持ち良さを自然と学んでいるように思います。このように、日常生活の中で、社会を学び、楽しく生きていく術を身につけてほしいと思います。そのためには、学校と家庭と地域が今まで以上に互いに協力し合うことが大切であると思います。

お弁当の日



垂井町立垂井小学校PTA

親子ふれあい手作り弁当の日

◆活動の経過と感想

私たちの町、垂井町では、親子のふれあいと食育を主なねらいとして、毎年数回「親子ふれあい手作り弁当の日」が位置づけられています。垂井小学校でも、今年度も年に五回位置づけられています。

「これを作って」と言って、親に任せ放しでお弁当のふたを開けたら自分の好きなものが入っているのではなく、作るまでの過程に子どもが関わることによって、作るまでには多くの労力がかかっているのだと知ることで食に関する感謝の気持ちが出てくると思います。

家庭によって、また児童の年齢によって、関わり方に違いはありますが、親子で関わりながらお弁当作りをしてほしいという願いのもと、実際に子どもに一緒に作らせる保護者の方、一緒に作るなかで子どもができる役割を与えたり、材料をそろえるために一緒に買い物に行ったりする保護者の方など、様々な関わり方で、お弁当の準備を行っていただいています。

その中で親子の関わりが深まり、食育にもつながっていきます。また、お弁当にこめた親の思いも知ることができます。そして、親も子どもとコミュニケーションや、食に対する意識を高めることにもつながると考えています。

しかし、実際に保護者の方も、忙しい中で、しかも子どもを早起きさせて作らせることは大変だと思います。ひょっとすると、一番エネルギーが必要で、自分でやってしまったほうが早いと思われる方もみえるのではないかと思います。そんな中で、いかに趣旨や意義を伝え、ご協力いただくかが課題です。また、子どもが関心をもって、発達段階に応じた弁当作りへの関わり方ができるようにしていくことが大切であると考えています。

実際にお弁当の日、子どもたちは朝からワクワクしています。そして、お弁当の時間、お弁当を開く子どもたちは、目が輝いています。さらに、自分が関わったことについて、「この卵焼きは自分で焼いたんだよ」とか、「このおにぎりは自分でにぎったよ」などと、話をしてくれます。学校でも、普段とは違うシチュエーションで、円型に広がって食べたり、他の学年の子と食べたり、担任の先生が写真をとったりと、おいしく食べられる工夫をしています。

また、おにぎり弁当の日として、おにぎりを主食とし、おかずを一品程度に限定することにより、今の時代の食の豊富さに気づくようにする取組も行っています。こうした様々な取組を家庭と学校が一体となって行っていくことができるようにこれからもPRしていきたいと考えています。

◆活動を続けやすくするための工夫

この「親子ふれあい手作り弁当の日」の取組を行うにあたり、初めのうちは親子共に新鮮な気持ちで取り組むことができますが、回数が重なるにつれ、どうしても形骸化してくる部分があると思います。

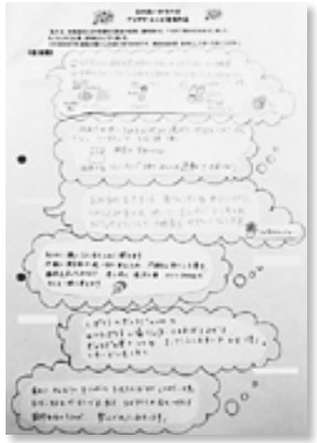
そこで、PTA母親委員会では一昨年に、この「親子ふれあい手作り弁当の日」を子どもたち、保護者の皆様に楽しく続けてもらうためにはどうしたらよいかを話し合い「お弁当のアイデア・レシピ」をアンケートで募集する取組を行いました。

最終的に候補作品の中から先生方、母親委員で選考を行い《優秀賞》《アイデア賞》を選出し、受賞者には景品をプレゼントしました。また、二〇一六年度からは、おにぎりとおかず一品程度とする「おにぎり弁当の日」が始まりました。

忙しい時間の中でもこれくらいなら朝の時間でも負担が少ないし、これなら子どもも参加させなくてはと思えるので、子どもの参加率も上がると期待しています。

◆課題と今後の計画

「親子ふれあい手作り弁当の日」の取組みについて、テーマや主旨が立派だったり素敵だったりすると、それに応えようとする親御さん程一生懸命になりすぎたり、長続きしなくなったりして、ただ苦痛な学校行事になってしまいます。適度に肩の力を抜いて、気軽に参加できる行事にすることが永く続けていく上で大切なので、これからも「親子ふれあい手作り弁当の日」を続けていくにあたり、親子共々楽しく取り組める工夫を学校、PTAで考え取り入れていきたいと考えています。



▲アイデアレシピ優秀作品

保護者の感想

- 母としてはやはり、子どもの「今日のお弁当おいしかった」の一言を聞けることが醍醐味です。
- 朝の忙しさの中では、ゆっくり子どもとお弁当作りは出来ませんが、前日に一緒にメニューを考えたり下ごしらえをしたり、当日の朝お弁当に一緒に詰めるだけでも有意義だと思います。
- 時間にゆとりのある前日にリクエストするお弁当の絵を描いたり、下ごしらえを一緒にしたりします。当日の朝、忙しい中でお弁当作りをするよりも、心にゆとりがあるので親子共々楽しく時間を過ごせます。ふれあい弁当も家庭ごとにふれあい方が違っていても良いと思います。
- 弁当作りの大変さ、子どもを巻き込まねばならない大変さがある。
- 仕事の出勤時間との兼ね合いで、結局子どもが起きてくる前に完成させてしまっている。

児童の感想

- お弁当の日はお友達とお弁当を見せあったりして、わいわい楽しい気分で食べられます。
- お母さんに色々教えてもらって、自分でもおいしそうなお弁当を作ってみたいです。
- 絵に描いた通りのお弁当を作ってくれるので嬉しいです。
- お弁当に使う食材を一緒に買いにいくことで、どこに売っていて、どのくらいの値段がするのか勉強になる。
- まわりの友達のお弁当と比べあいになって、変なお弁当だと何か言われるのがイヤ。
- 朝早く起きるのはつらいけど、自分で作ったお弁当を食べることが出来てうれしい。

school infirmary

保健室ノート

●瑞浪市立釜戸中学校
養護教諭
鈴木　純子

心の成長を願って

本校は、恵那市と瑞浪市の境に位置し、国道十九号線・ＪＲ中央線沿いの釜戸地区と中山道の宿場町として知られる大湫地区からなっています。とても素直な生徒が多く、物事にまじめに取り組むことができ、また、生徒会を中心としたボランティア活動なども積極的に行っています。

本校は三年後に統合を控えており、「輝く釜戸中」最終章エピローグ～確かな伝統と誇りの創造～と題し、校長先生を中心として、生徒一人ひとりが輝ける教育を推進しています。

私自身、小学校勤務が長く、久しぶりの中学校勤務となり、中学生の行動力、リーダーシップ、授業や行事などへの集中力などをみて、「中学生ってすごいなあ」「ずいぶん大人だなあ」と感心する事が多くあります。その反面、思春期は、学童期に比べ、悩みや悩み方が大きく変わってくると感じます。

自分が、周りや自分自身の「こうあるべき」という思いと、「思ったようにならない」ことへの不安、苛立ち、戸惑い。友達のこと、クラスのこと、家族のこと、勉強のこと、将来のことなどへの不安。思春期は、このように自分の事や他者との関係に「意識的に悩む」ようになると感じました。

「先生、話を聞いてもらってもいいですか？」

授業が始まる前にドアからそっと顔をのぞかせたＡさん。「次の授業は？」と聞きたいのを呑み込み、「どうぞ」とそっと背中に手を添えて保健室の中へ迎え入れる。「何かあったの？」と聞くと、途端に今まで我慢していたものが溢れ出し、ぽろぽろと涙が頬を伝った。相談コーナーの椅子に座らせ、ゆっくりと話を聞く。

一通り話をして、少し心が整理され、すっきりした顔で「先生ありがとう。また話聞いてね」と授業に戻っていきます。

悩みの渦中にいる時は、それがすべてだと思い、そこから抜け出せなくなって苦しみます。そのため、保健室では丁寧に話を聞く中で、ちょっと目先を変えられるような手助けをしています。自分の弱点、友達の弱点を理解し、多様性を認められるようになることで、「何とかやっていけそう」と思えるような働きかけを心がけています。

「先生、これ持っとって。あるとまたやっちゃうから」

過去に、私が経験した出来事です。

保健室で話を聞いていた時、自傷行為を繰り返していたＢさんが、そっと差し出しました。

困ったとき、追い詰められてしまったとき、心の支えとなれる一人であるために、信頼関係の構築と普段の生徒の様子、ちょっとした表情や態度の変化にも、常日頃から注意をしてみる必要があると感じています。それと同じことが家庭でも言えると思います。

私自身、中学生と小学生の子を持つ母親ですが、中学生になると、だんだんと手をかける事が少なくなり、また、親の干渉を受けることに拒否感を抱くようになります。そのため、適当な距離感を保ちつつ、しかし決して目は離さず、子どもが困った時、支えてほしい時には、タイミングを逃さずサポートできる関係を築くことが、子どもの「心の成長」においても大切だと感じます。

pleasure

イラスト&クイズ

加藤蒼乃（揖斐郡）

ＰＮ．なつみかん（関市）

QUESTION -1

あたたかい所に住んでいるたぬきは何色？

出題・石川まゆ（恵那市）

〈答えは41ページ〉

先生として育てられている

岐阜市立岐阜中央中学校　教頭
古田　浩章

私は、教職に就いた時から、先生の仕事は、子どもに「学力」を付けることはもちろん、一人ひとりに「生きる力」を付けることであると教えられてきました。このことは、学校の「子ども」と「先生」だけのかかわりだけでなく、家庭・地域も含めたかかわりの中で育てられていると実感しています。

ただ、私も子どもたちと同じように、これまで、たくさんの方々とかかわらせていただきながら、育てていただいているのです。

「ちょっといいですか。」

社会人一年目。職員室で仕事をしていた私に、校長先生が声をかけてくださいました。呼ばれた私は、校長先生と一緒に校内を巡回させていただくことになりました。「この学級のロッカーを見てごらん。」「この学級のぞうきんはいつもきれいにかけられていますよ。」「あの先生の言葉をよく聞いていてごらん。」「今の生徒はどうして、あのように発言するか分かりますか。」等々。各教室の廊下に立ち止まりながら、社会人一年目の研修（いわゆる初任者研修）をしていただいたのです。校長先生のこの研修は、私の目の前にある生徒と先生方の日々の営みから、どのように生徒が育ち、なぜ生徒に力が付くのかということを教えていただきました。また、私にとって、教師として働いていくための「構え」をもたせていただいたと感じています。そして、私の中では、今でも「こんな先生になりたい！」、「こんな学級にしたい！」を描く原点となっています。

「先生の言っていること、よく分からんもん。」

私は、教師としてある程度の経験を重ねるにつれ、自分の専門とする教科の授業を、より充実したいと思うようになりました。いつも「運動をできるようにさせたい。」という思い一心で授業づくりに取り組んでいたように思います。しかし、どうしても納得できる授業をすることができません。子どもに対して申し訳ないという思いもあり、ある時、私は自分の授業について、子どもたちに尋ねてみることにしたのです。「今日先生がみんなとやりたかった授業は・・・。」私がやりたかった授業について説明したところ、ある子どもが答えてくれました。

「だって、先生の言っていること、よく分からんもん。」

私は、この答えの意味について考え、あることに気付くのです。私は、子どものことを考えたつもりで授業を設計していただけで、実は少しも子どもの立場に立っていなかったということです。私は子どもから、授業には「教える立場」「教えられる立場」だけでなく、「子どもと一緒になって考える立場」があることを、教えてもらえたのです。

「恩送りならできる。」

今でも私は、どの先生方からも、子どもを惹きつける素敵な「魅力」を感じその「すごさ」を目の当たりにしています。毎日を一緒に過ごす子どもや、常に我が子を大切に思う保護者の方々からも、私では到底真似することができない「すごさ」を感じています。これらは、私にとって「あのようになりたい」という強い思いをもたせていただけます。そして、「よりよい先生としての在り方」を見つめ直す機会となっています。この機会こそが、私の先生として育てられている感じなのかもしれません。

ある時、次のような言葉に触れ「はっ」としたことがあります。「これまで教えていただいた方々に対して恩返しをすることは難しい。でも、これから一緒に働く方々への恩送りなら容易にできるはず。」

私がなんとかここまで先生として育てていただけたのは、たくさんの先輩や同僚、子どもや保護者、地域の方々の教えがあったおかげです。今、目線を前に向けたとき、私の学校でも、日々、子どもと苦楽を共にする先生方が見えてきます。これまでいただいた「教え」を、私なりに少しずつでも伝えることで、先生方のお役に立てるのであれば、それが「恩送り」になるかも、と思っています。

いつか「ちょっといいですか。」と声をかけてみよう。そして、これまで私を育てていただいた皆様に感謝しつつ、ちゃんと「恩送り」ができるよう、まだまだ先生方から、たくさんのことを学んでいこうと思っています。

子育て半生記

私のチャレンジ

郡上市立大中小学校PTA会長　石神 良行

『チャレンジもしなくてあきらめるのは嫌だ』―二〇一一年八月の中日新聞の特報「声は自由、心届け」という記事のなかの言葉です。

この言葉の主は、佐野有美さんという方です。

佐野さんは生まれた時から肩から先がなく、先天性四肢欠損症として、自由になるのは左足とその先にある指三本だけだそうです。二歳の頃、自宅の庭先で砂遊びをしている佐野さんは、左足の指先で上手にスプーンを持ち、砂を隣の器へ…そして砂の入ったカップをカップごと持ち上げていました。それからお母さんは日常の色々な動作の練習に取り組むようになり、自分で洋服を脱ぎ着する練習もして、五歳から始めた水泳は一〇〇メートルも泳げるといいます。高校時代には、チアリーディングに入り、今ではCDも出しているそうです。佐野さんについて調べてみたら、素晴らしい言葉がいくつかありました。私が心に響いたのは、『じっとしていたら進歩はない、挑戦することがある、改善点があるということは、次の目標、やるべきことが一つ見つかったということ。』こんなにも人生を前向きに生きているなんて、本当に素晴らしい方です。

他の人から見れば、たいしたことではないかもしれませんが、私は人と話をするのが苦手です。俗に言う話下手です。そして、人見知りです。何を話せばいいのか、どのようにして話を盛り上げるのか、周りの人が楽しく話をしているのを見ていると、すごく羨ましくて仕方ありません。大勢の人の前で話すなんてことは、今まで生きてきたなかで全くと言っていいほどありませんでした。というより、その様な場を避けてきました。

小学生の頃から役員を決める時期になると、嫌で嫌で学校に行きたくありませんでした。このような私が、今年度PTA会長という大きな役をやらせていただいています。

昨年度の九月、運動会が終わり、そろそろ来年度の役員を決める頃だと妻と話をしていました。「会長は誰になるのかな?」「あの人は他の役をやっているから違う」「あの人は前にやっていたような気がする」、親御さんの顔を浮かべながら話していると、あれ?もしかして自分に回ってくるのじゃないかなと思いました。

あの日のことは忘れません。子どもと風呂に入っていたら、突然PTA役員の人から電話がかかってきて、「今から話があるから家に行ってもいいですか」と聞かれました。実際、自分はPTA活動には積極的ではないし、役員さんもなんとなくしか覚えていませんでした。ですから、PTA役員の人からの連絡に、「会長を頼みに来るのじゃないか、どうしよう」と内心慌てていました。

私は目立つタイプではないので、やはり華がある親御さんの方が、入学式・卒業式など行事に映える等と断る理由を考えていました。ですが、実際に役員さんとお話をしていて、声をかけてもらったのも何かの縁だと思うようになりました。そして、勇気をふりしぼって引き受けました。

PTA会長という役に『チャレンジ』をしました。実際、PTA活動は一人ではできない仕事です。先生方、役員、委員会のみなさんで協力して運営していくことで成り立っていくのです。さらに大中小学校では、夏祭り・運動会は自治会と共同で開催します。会長の大きな仕事に、みなさんの前で話をすることがあります。数えてみると、一年に三～四回くらい話をする機会があります。話し下手の私にとっては非常に大変なことです。卒業式という大きな仕事も残っています。でも、「チャレンジ」です。

人見知りの私が、この半年で人とのつながりが増えました。少しですが自分が成長したように思えます。残りの半年も成長していけるよう、佐野さんに負けないよう、チャレンジ精神でPTA会長を精一杯つとめさせていただきます。

pleasure

イラスト&クイズ

柴垣心優（岐阜市）

PN. 泣き虫しーちゃん（岐阜市）

QUESTION-2

人によけいだと思われてしまう貝は？

出題・安藤真斗（本巣市）

〈答えは41ページ〉

山県市・本巣市のPTAふれあいニュース

vol.3

PTA会員と地域の力を借りた「職業講話」

山県市立高富中学校PTA

高富中学校では、十二月十七日(土)に高富中学校応援団本部(学校運営協議会の名称)とPTAが主催する「職業講話」を行います。

これは、生徒の夢づくりを応援するため、いろいろな職業の方を講師にお招きし、仕事の魅力ややりがい、仕事に就くための条件や資格等を教えていただき、自分の生き方を考え、進路を選択できる力や態度を育てていきたいと願い計画しました。

学校応援団本部に所属するPTA執行部が中心となって、準備を進めています。現在は、「職業講話ボランティア講師募集!」と題して、保護者本人はもとより家族や知り合いの方で、講話をしていただける方を広く募集しているところです。

この「職業講話」は、初めての試みであり、「講師が集まるのだろうか。」「準備から当日までどのように運営していけばよいのだろうか。」等、不安もありますが、「全ては生徒たちのために。」という思いでPTA会員と地域の力を借りて取り組んでいきたいと思います。

「ウイークポイント」は「ストロングポイント」

山県市立伊自良中学校PTA

九月三日(土)に、地域の方や保護者、先生、そして生徒達がボランティアで参加し、学校のグラウンドや体育館等を清掃整備する「環境整備活動」を開催しました。

この活動は「学校のグラウンド等、環境を綺麗にしたい」という生徒の気持ちをきっかけとし、今年度初めてPTAが企画した取組みです。大変暑い日ではありましたが、体育祭を前にグラウンドの草引きを皆で汗を流しながら行いました。特に今までの部活動の思い出を胸に、三年生の生徒達の一生懸命活動する姿は印象的でした。

本校は一年生と二年生が一クラス編成です。その点は「少人数校」という「弱みweak point」かもしれません。しかし、今回の活動のように地域、保護者、先生、そして生徒達、それぞれが「連携・連帯・連動」することにより、「少人数」でありますが「連携・連帯・連動しやすいコンパクトな体制」と言い切れる「強みstrong point」となることを目標として、PTA活動を今後も運営して参ります。

親子でふれあうドッジボール大会

本巣市立外山小学校PTA

本巣市立外山小学校では、毎年六月の初旬に親子の絆を深めるために、保護者が参加しやすい土曜授業で「親子ドッジボール大会」が行われています。

今年は六月十一日(土)に行われ、天気にも恵まれて少し暑い位の中、開催されました。その際、PTAの学級委員さんが中心になり、コートのライン引き等の準備から進行までを行いました。

試合は、一年生から六年生まで一緒の「児童の縦割り班」+「保護者」混合チームでの対抗戦です。

試合が始まり、高学年の男子がボールを持てば、相手チームの同じ高学年の子が大人めがけて本気で投げるハードな場面もあれば、隣にいる低学年の子にボールをまわしてあげる優しい気遣いをする場面も見られ、とても和やかに進んでいきました。

試合を通して、子ども同士が見せる思いやりの心や本気の姿勢に、親として子どもの成長を感じることの出来る貴重な時間でした。

絆を深める「親子活動」

本巣市立根尾小学校PTA

全校の児童数が二十九名で、その数が年々減少してきている根尾小学校では、プール掃除をするにも人手が足りなく、児童と職員だけでは、作業に時間がかかり、なかなかはかどりません。

そこで、四年前から「親子プール掃除」を実施し、保護者の皆さんにもプール掃除のお手伝いをしていただいています。親子がコミュニケーションをとりながら、親が子に働く姿を自ら示すことで、親子の絆を深めるとともに、汗して働くことの大切さを伝える格好の場にすることができました。

プール掃除の後に、消防署の方を講師に招き、親子で救急救命法講習を受けました。

講習会では、人口呼吸法、心臓マッサージの他に、AEDの使い方も教えていただき、実際にダミー人形を使って救命活動を体験することができました。

教えていただいたことを、親子で確認し合いながら楽しく実施することができました。この活動も、親子がコミュニケーションを図る、とてもよい機会となりました。

私が出会った1冊の本【続28】

輝ける闇

開高健　著
新潮社

瑞浪市立釜戸小学校　吉村　美信

「…しめやかな苔の香りが濡れた頬をかすめた。まっ暗な、熱い鯨の胃から腸へと落ちながら私は大きく毛深い古代の夜をあえぎ、あえぎ走った。森は静かだった。」

本作品の終末です。

開高健との出会いは、週刊誌読者が質問をし開高が答えるというコラムを二冊にまとめた「風に訊け」でした。

たわいのない日常の質問から哲学の内容、世情を憂いたことなど、軽妙に神妙に重厚で深遠に答えています。そんな開高の答えの中に見え隠れする人生観、価値観、そしてたわいもない内容の文章の中にすらあふれ出てくる言葉の洪水。当時の私はそんな言葉の中で犬死しているような感覚を覚えました。

前著の中で決定的に引きつけられた点が以下です。

「二月十四日は、私の命日である。一九六四年の二月十四日、当時ベトナム戦争の取材で、南ベトナム政府軍に従事していた秋本啓一と私は、ジャングルでベトコンの急襲を受けて、二百人中十七人しか生き残らないという、九死に一生をえた。ホントなら、あそこで死んでてなんの不思議もなかったくらいのものだ。

それから秋元と私は二月十四日を自分たちの〝命日〟として、毎年ふたりで酒をくみかわしていた…」

この文章から「輝ける闇」の存在を知ることになりました。

本作品は、開高がベトナム戦争に従軍記者として赴いた際の体験をベースにした私小説的な内容でもあります。

淡々と進む、前段から中盤の人間模様、そして終末になり緊張感のなかにありながら弛緩したような「凶暴な、そして透明な波が…」押し寄せてくる情景と心理の表現。

現地のまとわりつくような湿気、いつ命を落とすともしれない焦燥感、不安感、鬱屈とした時の流れから、開高の生への思いが伝わってきます。

今ある自分の安穏としたくらし、生命の危険のかけらも感じず緊張感のない自分の生活を大いに恥ることしかりです。自分のまわりにある空気のようであり、また曖昧であるのになぜか確固とした「生」への保証に改めて気づきその意味を考えさせられます。

鬱蒼とした様々な匂いが全編を流れる中にあって、最後に開高が感じた「しめやかな苔の香り」はどんなものであったでしょうか。

カエルの楽園

百田尚樹　著
新潮社

大野町立大野中学校PTA副会長　白木　善博

「これは私の最高傑作だ」との帯封に、以前『永遠の0』『海賊とよばれた男』を読んだ時の感動を覚えていた私は、迷わずこの本を手に取った。

高まる期待を胸に読み終えたのだが、とてもいやな気持ちになり、読まなければよかったとさえ思ったのである。ところが、次の日になっても本のことが頭から離れない。誰かと話をしたいと思うのはなぜだろうか。

平和だったアマガエルの国に、ダルマガエルがやって来て毎日仲間が食べられ地獄と化す。若いソクラテスは、六十匹の仲間と共に安住の地を求め旅に出るのだが、苦難の連続で仲間たちは次々と命を落としていく。

失意のうちにたどり着いたツチガエルの国、ナパージュ王国は、争いや危険の全く無いまさに楽園そのものであった。王国とは言っても、選挙で選ばれた元老が国を治めている。聞けばこの国の平和は、遠い先祖から守られてきた三戒の教えのおかげという。

三戒とは「カエルを信じろ・カエルと争うな・争うための力をもつな」である。また、『謝りソング』は、先祖が犯した過去を謝り続けることで平和を祈る歌としている。

実際にはこの国は岩山に棲む巨大なワシに守られていた。三戒も『謝りソング』も元々は過去に犯したワシへの裏切りに対してのものだったのだが、自分の地位・名誉や権威を守る少数のカエルによって、三戒こそ平和を守るものだと国民が洗脳されていたのだった。

ある日、沼からウシガエルが上がって来る。扇動され三戒を守り抜こうとする一派と、国を守ろうとする一派との攻防が繰り広げられる。しかし、民衆は声が大きい者に扇動されて反対派の元老を追い出しワシとの提携も断ち、真実を知っている者、命を懸けて国を守ろうとする者を「いずれ三戒を破る者」と断定し処刑する。

その果てに何があったか。結局ツチガエルは無抵抗を貫いた結果、ウシガエルに国を奪われ、生き残った者も奴隷となるしかなくなってしまった。そして民衆を扇動していた者は、征服者に媚びへつらい、民衆の犠牲を土台に生き延びるのである。

しかし、この話、ただの寓話ではない。世界に目を向ければ、ナパージュを日本、ワシがアメリカ、ウシガエルが中国と見る人もあるだろう。また会社組織などの身近な人間関係に当てはめることもできるかもしれない。

この話の世界で自分は果たしてどのカエルになるのかを想像する時、たやすく扇動され現実から目をそらし見て見ぬふりをするような愚かなカエルにだけはなりたくないものだ。

情報を知り、状況を見極め、大切なことは何なのか、どうすることが正しい道なのか、自分の頭でしっかり考えて生きることを大切にしたい。そして、身近な人たちと語り合いたい。そう思う一冊との出会いだった。

pleasure イラスト&クイズ

PN. あおりんご（関市）

永田琴乃（関市）

QUESTION -3

ナイスなスイカは
何になる？

出題・木戸晨太郎（羽島市）

〈答えは41ページ〉

話そう!語ろう! わが家の約束

子は親の姿を見て育つ

中津川市立坂下小学校PTA会長　葛西 将光

葛西家の巻 64

わが家は、夫婦二人と長女（小六）、長男（小四）の四人家族です。

一、夜九時を過ぎたら寝にいく
二、ゲームは一日三十分（休日は四十五分）まで
三、子どもが勉強している時には、テレビを見ない

一と二は子ども達の、三は親の約束事です。

面白いテレビ番組がやっていると、ついつい九時を過ぎてしまいますし、うっかりしているとゲームの時間も三十分を過ぎていることもありますが、概ね守れています。

子どもの宿題が多い時には、親もなかなかテレビを見られませんが、これはしっかりと守っています。

家庭教育は、生活習慣を身に付けさせるために非常に大切だと思い、「早寝早起き朝ごはん」は、子ども達が小さい頃から気を付けて取り組んできました。

言うことを聞かない時には、ついつい怒ってしまいますが、なぜ聞かないのかを考えることも親として必要かな?と反省もしています。

子は親の姿を見て育ちます。私の日頃の行いこそ気を付けなければと思います。

スマホは持たせていませんが

瑞穂市立巣南中学校PTA会長　林　孝美

林家の巻 65

私たち保護者はネットゲームやSNS等のトラブルから子どもたちを守っていくためにも、子どもたちにそれらを「持つ・使う自覚（自己管理・規範意識等）」を持たせることが必要だと思います。加害者にも被害者にもならないように、そしてネット依存症となり基本的な生活習慣の乱れに発展しないように、子どもたちとネット使用について話し合っていくことがとても大切になってくると思います。

わが家では、スマホは持たせておりませんが、インターネット接続環境はありますので、様々な事例を挙げながらインターネットの使い方について話をしています。

以下は、我が家の約束事です。

一、使用時間を含め自己管理ができるようにする。
二、友だちや周囲に迷惑をかけない使い方をする。
三、周囲が不快に思うような書き込みや写真掲載をしない。
四、知らない人と連絡をとらないこと。

この約束事を作ることによって、子ども自身もインターネット使用にあたって、考えて使うようになったと思います。

これからも、家庭においてネット使用について話し合っていくと同時に、私たち大人が子どもたちの模範となる使い方を示していくことが求められると思います。

子の思い

まちにやさしい人になりたいな

山県市立高富小学校
三年　鷲見　心

わたしは総合の学習で、高富の花作り寿サークルの人たちといっしょに草を引いたりしてまちの中にある花だんをきれいにしました。

草を引き始めると、虫がすごくいて少しいやだったし、暑くてあせがとてもたくさん出てたいへんでした。

花作りサークルの人は暑い中、町のために花のお世話をやってくれているのですごいと思ったし、感じゃしたいなと思いました。

だからわたしもがんばってみんなといっしょに草を引きました。そうしたら、はじめは草だらけだった花だんがすごくきれいになりました。とても気持ちよかったです。

来週になったらきれいになった花だんに花を植えるので楽しみです。わたしたちの花だんを見てまちの人が「きれいだな」と思ってくれたらうれしいです。

花をきれいに植えたり、お世話をしたりして、わたしもサークルの人みたいに町にやさしい人になりたいです。

家族みんながそろう木曜日

関ケ原町立関ケ原小学校
六年　上條 孝太朗

ぼくの家は、祖父母、父、母、妹とぼくの六人家族でとてもにぎやかです。

しかし、父は土日は仕事で家にいないことが多く、母も平日はぼくたちが学校から帰る頃に再び仕事に出かけ、ご飯を食べ終わってから帰ってきます。

祖父母はぼくたちのせわをしてくれていますが、ぼくたち家族はばらばらの生活をしていることが多いです。

でも、父の仕事が休みの木曜日は、母が少しおそくなるけれど、家族六人そろってご飯を食べることのできる日です。父と話ができる木曜日は、ぼくにとって男同士で話せる大切な時間でもあります。すれちがいの多いぼくたち家族が一緒のテーブルにすわりご飯を食べる木曜日は、とても貴重だと思います。

また、なかなかゆっくり話せない家族だからこそ、あいさつぐらいはちゃんとしなくてはいけないと思います。「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」をいい加減にしないことで、バラバラの生活をする家族一人ひとりがわかり合え、仲よく暮らしていけるのではないかと思います。

これからも、家族がそろう木曜日、コミュニケーションの基本のあいさつを大切にしていきたいと思います。

地域とのつながり

岐阜市立東長良中学校
三年　田中　豪

「地域とのつながりは、一番の防災である。」

これは、僕が小学五年生から行っている東日本大震災の復興ボランティアを通して学んだ大きな教訓です。

震災直後の被災地は、普通の幸せな生活が泥の中に埋まっていました。多くの人が亡くなり、体育館が遺体安置所となった小学校。この目で見た数々の光景が僕の脳裏に鮮明に焼き付いています。

僕は、ボランティアを通して学んだことを生かすためにも中学校で生徒会長になりました。

全校生徒が行う地域の清掃活動では、小学生や地域に住む方々へ参加を呼びかけ、中学校と地域をつなげる場をつくることができました。災害において、地元とつながりの深い中学生が重要な役割を果たす必要があります。そのためにも困ったときに助け合える関係を地域の中でつくることがとても大切です。

「地域とのつながりは、一番の防災である。」ということを大切に今後も活動を続けていきます。

親の願い

子どもの強い味方

大垣市立宇留生小学校PTA
会長　木村 幸弘

わが家には三人の子どもがいます。中学三年生の長男、中学一年生の次男、そして小学四年生の長女です。最初の受験生をむかえて、親としてどうしていいか分からず、ただ見守るしかない日々です。また、長女が少し大人（？）になり、父親離れしてきてちょっと淋しいかぎりです。

さて「親の願い」ということですが、大きなくくりとしては、親は皆同じだと思います。それは「元気に育ってほしい」「幸せな人生を送ってほしい」などです。

ただ思いは同じでも、子どもの育て方は十人十色、それぞれ違います。どれにも良い面も悪い面もあるかと思います。そして、どれが正しいかは、きっと誰にも分からないことだと思います。

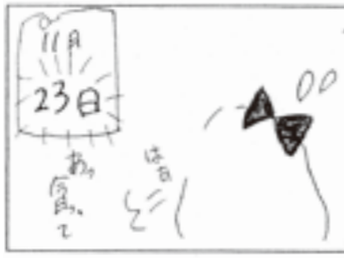
子どもが何歳になっても、子育てに終わりはありません。大事なことは、親としていつまでも子どもをやさしく見守り、気持の上で強い味方であることだと私は思います。子どもは敏感です。そういう気持ちをしっかりと持っていれば、必ず伝わります。もちろん、時には厳しいことを言うのも必要です。

私の子どもの頃とは、子どもを取り巻く環境は大きく変わっています。休みの日などに、昼間からゲームやアプリをしている子どもがたくさんいます。「昼間からゲームばかりしてないで、外で遊びなさい。」と叱ったことがある方も少なくないと思います。でも、同時に心のどこかでは、外で何してるか分からないより、またどんな危険な目に遭うか分からないと心配するよりは、目の届く所にいることで、知らず知らずのうちに安心している方も多いかと思います。

確かに外には昔からある危険に加えて、様々な危険がプラスされていて、親としては心配が

大垣桜高校 まんが研究部

勤労感謝の日



逆さ言葉

なみだみな
（涙、見な！）

出題・大平修也（海津市）

絶えません。でも、過保護になってしまうのは、子どもにとって決して良いことではありません。そういう所も考え、うまくバランスをとることが大切です。

　最初にも述べましたが、わが家には三人の子どもがいます。これからも親として三人の成長をしっかりと見守り、強い味方であり続けたいと思います。そして、この気持ちは必ず子どもたちに伝わると信じています。

高校生活で頑張ってほしいこと

下呂市立竹原中学校PTA
会長　曽我 昭和

　高校生活で頑張ってほしいことのまず一つ目は、『自信をもって取り組む』ことです。

　高校という新しい環境の中で、学ぶことへの不安もあるでしょう。時には、失敗することもあるかもしれません。不安を抱え、時には立ち止まってもいい。失敗してもいい。ただ、それらを恐れることなく、まっすぐに前に進んでもらいたいと思います。そして、どんな新しいことにもたくさんチャレンジしてほしいと願っています。二度と戻らない高校生活を楽しんでほしいです。

　高校生活三年間で頑張ってほしいことの二つ目は、『自立』です。

　一人前の人間として、自立するということは、全部を自分の力でできるようになることと思われますが、決してそうでなくてもよいと思います。

　自分自身をよく知り、自分の得意分野を生かしていってほしいし、苦手分野に関しても、目標をもち努力を積み重ねる中で、時には、壁にぶち当たることもあると思いますが、周りから助けてもらいながら自分の力で乗り越えていく。これが、社会における『自立』だと思います。

　高校では、自分ができることには力を惜しむことなく出し、仲間とともに協力しながら、取り組む中で、自分に自信をもつことができることを願っています。

　そして、何年か経ち、社会に出たとき、いろいろな経験の中で、自分の得意分野を生かし、社会に貢献できる大人になってもらいたいと思います。

　僕の子どもは、現在、中学三年生ですので、義務教育も残り数ヶ月ですが、中学校生活の中で学んだことを大切にし、これまで共に過ごしてきた仲間と励まし合いながら、受験に向かい勉強に打ち込んでいけるよう親として、精一杯応援していきたいです。

　『自信』をもってほしい。『自立』してほしい。と親は願っていますが、子どもにとっては、簡単なことではないと思います。これから、ゆっくりとたくさんの経験を重ねる中で、成長できるよう今後も支えていきます。

教育の窓

夏休みには子ども達にステキに関わり、ステキな体験を

土岐市立妻木小学校
教頭　溝口 喜久

　「この夏、自転車を走らせ、仲間といっしょに妻木町内の石造物を調査する我が子をみて、いい体験をさせてもらって本当にうれしい気持ちです。」これは、校内作品展に訪れた父親の感想です。

　夏休み前、五・六年生の児童に声をかけ、三つのプロジェクトを計画しました。きっかけは、本校のふるさと学習です。総合的な学習の時間に地域指導者を招き、地場産業のやきもの（五年）や妻木城築城と町の歴史（六年）を学んでいます。こうした学習を発展させ、五年は、地元で生産されるやきものの種類と生産数を調査、六年は、妻木城址のある城山を中心とした立体模型制作と石垣に使用されている花崗岩でできた石造物の調査を担当することになりました。

　このプロジェクトで大切にしたことは、計画性・協働性・大人との関わりです。教科書のない学習は、子ども達にとって困難なことです。実社会でも、企画会議や作業工程の打合せを行います。具体的な見通しが持てるまで、大人（先生や地域指導者）が一緒に計画づくりを行いました。イメージマップとイラストを用いて願いを共有し、完成予想図やグラフなど形にしました。形が見えてくると問題点にも気づけるようになり、より具体的な計画にできました。調査を進める段階では、材料の調達や道具の用意、アンケートの依頼文作成と配布依頼等、準備の手順の多さに驚きながらも、仲間と協働する大切さや、地域の方や家族の協力を実感したようです。

　同様の経験を科学研究に挑戦した子も実感したようです。「先生、理科の教科書は簡単だね。道具もやり方も書いてある。でも、夏の研究は大変だったよ。」研究を進めるには見通しを持つことが必要ですが、研究の進め方講座を開くことで、保護者の方にも、具体的な作品イメージを持ってもらうことができました。失敗した実験も大切な研究であることや説明の言葉も親子で一緒に作るといいことも、子どもにステキに関わることと考えています。

　二十一世紀をたくましく生き抜いていく力は、こうした貴重な体験からも育まれるのではないでしょうか。無形（願い）から有形（体験や作品）を生み出す体験が重要です。

　今年の夏、祖父の養蜂に興味をもち、ミツバチの研究をした子も、両親・祖父との交流を深め、ステキな経験をしました。将来子ども達が、自分の体験を我が子に話すときがきます。だから

大垣桜高校 まんが研究部

月の中

逆さ言葉

よだんだよ
（余談だよ）

出題・伊藤慎介（山県市）

こそ、子ども達にはステキな関わりとステキな体験が必要と考えています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「なぜやるのか」を共有する大切さ

関市立小金田中学校
教諭　竹智 丈裕

教師になって十二年目になりました。その間に親となり、地域の様々な役割も多く回ってくるようになりました。今は、地元の消防団の分団長と保育園の保護者会長をさせていただいています。

「大変だろうけれど、地域の一員として、誰もが前向きに地域の活動に取り組めたらいいなぁ。」と思う一方、消防団員の方々と話していて時々耳にするのが、「なんでそこまでやらないかんの?」という言葉です。訓練、点検、夜警広報（「火の用心」と言って回る活動）など、仕事で疲れた体には大変です。その上、服装や器具の扱いの細かい所まで徹底するのですから、前向きに取り組めずに愚痴をこぼしたくなるのは当然です。初めのうちはその不満を聞き、「でも、まあ…。」となだめるように答えていましたが、「今、自分が言っていることは理由になっているのか?そもそも、自分だって『なんで?』の答えを考えて、納得していたのか?」と、不安になってしまいました。当然団員の方は、「仕方ない。」としぶしぶ納得する様子で帰られました。

納得させられなかった悔しさより諦めの方が勝って、「どうせ任期を終えれば関係ない。」と投げやりになりかけたとき、ふと「こういうことって、学校でもあるよな。」と思いました。「なぜそうするのか」が伝わらず、指導が滞って生徒を困惑させてしまうケースです。「『なんで?』と尋ねても『なるほど。』と思えない。だから前向きになれない。」と考えると、周りの人が前向きにならないのは、自分が「なぜやるのか。」を十分に考えて、伝えていなかったからだということになります。「なんで?」の理由が曖昧な伝え方は、大人同士でも無責任の連鎖になるのだと反省しました。

学校で「なんでシャツ入れないかんの?」「ちょっとくらいロッカーから物がはみ出とってもいいやん。」というような声を聞きます。私たち職員は「シャツを入れないと活動がしにくいでしょう。入試の面接でどんなにやる気のあることを言えても、見た目で印象が伝わるしね。」「整った環境なら落ち着いて授業に取り組めるし、係の仲間も整えようと働きかけているね。」と、さっと答えます。一度ダメでも何度でも話し、些細な改善点も見つけて認めます。そんなふうにできるのは、職員同士で服装や校内美化について話し合い、納得のいく指導の仕方を確かめたからです。

だから今は、「なんで?」に対して、地域の大人の一員として、一保護者として、さっと答えられるまで考えることを心掛けています。答えられないことは「やめましょう。」と言うようにもしています。消防団でも、「なんで?」に対して「そうしないと…。」「そうすれば…。」と考えたことを話し合うと、「それならこうしておいた方がいいな。」と納得し合うことができました。「なんで?」を考えると、そこで生きている人々に「こうあってほしい。」という願いにまで行き着きます。

学校でも消防団でも、願いを共有し、そのためにやっておきたいことを確かめることが大切だと学びました。近道はありませんが、学校で高めた力は地域に、地域で学んだことは学校に生かしていきたいと思います。

親子で はてな

11月号のクイズ

Q1

2016年11月に次期アメリカ大統領選挙が予定されていますが、アメリカ大統領の任期は□年で、最大□期まで可能でしょうか。

イ、8
ロ、4
ハ、2

Q2

下の数字は、ある法則に従って並んでいます。
□に入る数字は何でしょう。

1 −2 −4 −7 −11 −16 − □ −29 −37

ヒント：増える数に注目

9月号クイズ答え

Q1　ウ

Q2　かえで

9月号のクイズ当選者

木戸晨太郎（羽島市）　足立　芽生（関　市）
安藤　真斗（本巣市）　藤井　祐太（養老郡）
竹田隆之介（本巣市）　三宅　晴（美濃加茂市）
伊藤　慎介（山県市）　伴　和親（多治見市）
金谷　莉奈（大垣市）　石川　まゆ（恵那市）
大平　修也（海津市）　大山　真澄（中津川市）
勝　有萌果（不破郡）　牧野　虹心（中津川市）
柏木　大吾（高山市）

応募方法

応募者は、はがきで、11月末までに下記の宛先へお送りください。
（1人1枚・当日消印有効）
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先　〒500−8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 11月号クイズの答え
- 郵便番号・住所
  学校・学年・氏名
  保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

お試しクッキング

豆腐の白玉とさつまいものココナッツミルクがけ

岐阜県学校栄養士会

さつまいもがおいしい季節なので、甘く煮たさつまいもとココナッツミルクを合わせた、簡単アジアンデザートです。さつまいもは、食物せんいとビタミンCを多く含んでいます。食物せんいは、おなかの調子を整え、ビタミンCには、風邪予防の働きがあります。白玉餅は水の代わりに豆腐を使用することで、やわらかくもちもちした仕上がりになります。また栄養面でも成長期に大切なたんぱく質やカルシウムをとることができます。ココナッツミルクは、暑い時期には冷たく、寒い時期には温めるとおいしいでしょう。ココナッツミルクがない場合には、牛乳にガムシロップを加えたものでもよいです。

作り方

さつまいもの甘煮

❶ さつまいもは、皮付きのままよく洗い、皮ごと1.5センチ角に切る。2～3回水を替えて水にさらす。
❷ なべに❶と砂糖、水を入れる。ふたをして弱めの中火で約10分、さつまいもがやわらかくなるまで煮て冷ます。

豆腐の白玉

❶ ボールに白玉粉を入れ、豆腐を少しずつ加えて、両方を手でつぶしながら混ぜる。粉が残らなくなるまでよくこね、耳たぶ程度のやわらかさにまとめる。
❷ ❶を丸め、中心を指で軽く押して、くぼみを作る。
❸ 鍋にたっぷりの湯を沸かして、❷を入れる。浮いてきてから1～2分ゆで、冷水にとって冷まし、水を切る。

ココナッツミルク

❶ ココナッツミルクと牛乳を混ぜて、お好みでガムシロップを加えて、甘さを調整する。

仕上げ

器に豆腐の白玉とさつまいもの甘煮を入れ、ココナッツミルクを注ぐ。

材料 4人分

さつまいもの甘煮
- さつまいも……100g
- 水……1／2カップ
- 砂糖……大さじ2

豆腐の白玉
- 白玉粉……50g
- 木綿豆腐……100g

ココナッツミルク
- ココナッツミルク……1／2カップ
- 牛乳……1／2カップ
- ガムシロップ……1～2こ（お好みで）

●栄養価（1人あたり）

エネルギー	169kcal
たんぱく質	4.1g
脂質	6.3g
カルシウム	70mg
鉄	0.7g
亜鉛	0.7g
ビタミンA	11μgRE
ビタミンB_1	0.06g
ビタミンB_2	0.06g
ビタミンC	7g
食物繊維	0.9g
塩分相当量	0g

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の解答とともにお送りください。

宛先はいずれも　〒500-8824　岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行（7・9・11・1・3月）されます。年度始め（4～5月）と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います（1冊200円、5冊1,000円）が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■9月号を読んで

「私の先生」。体育科の先生のお話「そうそう!」とうなずきながら読んでしまいました。　Aさん

毎号楽しく読ませていただいています。「わが家の宝物」に同級生の子の名前があり、活躍しているなと、ほっこりしました。　Kさん

「話そう!語ろう!わが家の約束」。各家庭の約束、参考になります。子どもと一緒に約束を考え、決定して書面化して掲示することも大切ですね。今後も、興味深く読ませてもらいます。　Mさん

「話そう!…」。スマホの使い方について、いつも参考にしています。うちはまだ与えていませんが、とても欲しがっています。家でのルールをきちんとしてからと思い、悩み中です。　Bさん

「子育て　大切な視点」。自分の気持ちに正直に生きることが大切だと思いました。その方が、シンプルに生きられると思いました。次号の続きを、今から楽しみにしています。　Aさん

「話そう…」。わが家の約束はとてもいいことで、わが家でも実践したいです。　Iさん

次の号、出る頃はもうすぐ冬ですね。一年は早いです。あと少しで六十歳（四年後）。でも三人の娘は、高校と中学生、頑張らなくては!　Kさん

楽しく読ませていただきました。大人の事情で母子家庭にさせてしまった我が子。考えさせられました。親の都合ばかりで子どもを振りまわさず、向き合って共に成長していけるよう、日々を過ごしたいと思いました。有難うございます。　Kさん

「お弁当の日」。お弁当、おにぎりを通して親子のコミュニケーション、友達とのコミュニケーション、そして色について考えるきっかけになるのだと思います。穂積の麓さんの「食べることは生きること」の講演を母親委員研修会で聞く事ができ、「お弁当の日」の本当の意味を知り、とても心に響きました。お弁当の日を、まず家庭でやってみたいです。　Tさん

■編集後記

徳島で行われた日本PTA全国大会で、講演された竹宮惠子さん。自らの体験を振り返って「子どもの頃、生活するのに一杯だったからか、親が子どもにかまっていられる時間が無かったと思う。そのため、親からの拘束が殆どといってよいほどなく、自分の考えや思いを、自由に発展させることが出来たことが、今の自分（まんが家で京都精華大学学長）にすごく影響していると思います。高校生の3年間、自分で人生を切り拓く覚悟を養うには、中学までにのびのび過ごさせること。好きなことに没頭させること。これが力になると思います」と話されました。子どもの自立（自律）は、他から与えられるのではなく、文字通り子ども自身が自分の中から生み出してくるものです。その環境をつくることが親の役割ということです。「生きる力」は親から与えられるものではない、と感じました。

岐阜県PTA連合会ホームページのQRコードです。「わが子のあゆみ」のバックナンバーが閲覧できます。

なぞなぞの答え

①あかい　②おせっかい　③イカ

■29年度1月号のお知らせ（予告）

特集＝子ども達に自尊感情を育む／表紙＝上之郷小／学校のたからもの＝華陽小・池辺小・富野小・平和中／わが家の宝物＝共和中／家庭教育応援団／療育＝東濃特別支援学校／お弁当の日＝岩野田北小／保健室ノート＝海西小／私の先生＝中野方／半生記＝市之倉小／一冊の本＝付知南小・上石津中／わが家の約束＝東第一小・富野中／ボランティアニュース＝下有知小・富野小・寺尾小・上之保小／子の思い＝高山北小・瑞浪日吉小・平田中／親の願い＝明宝小・星和中／教育の窓＝徹明小・山之村中／お試しクッキング／ふるさとの伝承＝坂内小中／きらり!キッズ!＝岐阜小／我らが部活＝北方中／私たちのPTA＝金山小

わが子のあゆみ

平成28年11月1日 発行
初冬号　第68巻3号
通巻第445号

頒価　200円（年間 1,000円）
＊お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話／058-262-3257　FAX／058-262-3259
ホームページ／http://www.g-pta.com
Eメール／info@g-pta.com
印刷／サンメッセ株式会社

土岐市立泉西小学校 ふるさとの伝承

泉西小学校は、昨年度三十五周年を迎えた、比較的歴史の新しい学校です。しかし、校下には、国史跡に指定されている「乙塚古墳」「段尻巻古墳」や、美濃窯最古の連房式登窯である「元屋敷窯」など三つの復元した大窯がある「織部の里公園」があり、歴史豊かな町です。織部の里の窯では、美濃桃山陶と呼ばれる瀬戸黒、黄瀬戸、志野や織部が生産されました。そして土岐市は、現在も全国一の陶磁器生産量を誇る、焼き物の町です。

しかし、ＪＲ中央線土岐市駅より徒歩十分ほどに学校があり、名古屋への通勤圏であることから、保護者で陶磁器産業に携わる方も少なくなり、子どもたちの生活の中にも粘土やろくろなどに触れる機会はほとんどなくなってしまっています。年に一度、図画工作での粘土作品づくりだけが、粘土に触れる経験という子どもがほとんどだというのが現状です。『歴史ある「作陶」に触れる機会を増やしたい』という願いの背景が、ここにあります。

「作陶体験」といっても、その準備や設備など、指導する教員の経験も含めて容易ではありません。そこで本校では、地域の力をお借りして、子どもたちの体験活動を実現しています。

作陶活動

▲3年ランプシェード作り

▲5年工場見学

三年生では、泉陶磁器工業組合青年部のお力をお借りし、粘土による「ランプシェード」作りを行います。プラスティックパイプに新聞紙を巻き付けた芯を使い、厚さ一センチの板状の「たたら」を芯に巻いて、「ドベ」と言われる接着剤や抜き型を利用して、明かりが漏れるように模様を付けていきます。乾燥後の焼成は地元の製陶所がしてくださいます。作成したランプシェードは、「九万九千日祭」や「あかりの夕べ」という地元のイベントで展示されています。

五年生では、公民館で活動する「陶寿会」のお力をお借りして、ろくろを使った「抹茶碗」作り体験を行っています。一人ひとりがマンツーマンで、粘土の固まりからひねり出して抹茶碗を作ります。施釉や焼成も陶寿会が請け負ってくださっています。作成した、世界でひとつだけの自分の抹茶碗を使って、茶道教室も行います。講師はやはり、地元の茶道家です。

こうした体験活動を通して、地元に受け継がれてきた技や文化に触れ、「美濃焼主産地土岐」についての認識を深めたり、地域の人々の生き方に触れたりする中で、ふるさとへの愛着を深め、誇りを持つことができることを願っています。

▲5年抹茶茶碗作り

▲5年茶道教室

校下▶

きらり！キッズ！

大垣市立青墓小学校は、全校児童四二八名の学校です。大垣市の北西部に位置し、旧中山道や国分寺跡、昼飯大塚古墳など歴史的な遺産がたくさんある地域です。学校の教育目標「ふるさとを愛し　心も体もたくましい子」をめざして、地域の協力を得ながら様々な活動に取り組んでいます。その中から「ふるさと」に関わる活動を紹介します。

青小まつり

毎年十一月、ふるさとの歴史を題材にした音楽劇や学級の取組みを紹介する「青小まつり」を行っています。一・二年生は生活科で学んだことの紹介。三年生はふるさとの民話。四年生は音楽劇「白玉姫物語」、五年生は音楽劇「照手の井戸」、六年生は音楽劇「朝長と青墓の夜」です。ふるさとのことを学びながら、地域のことを堂々と表現できるようになることを期待しています。

青小まつり（6年生）
音楽劇で迫真の演技をする子どもたち。

青小まつり（3年生）
ふるさと民話を発表する子どもたち。

袋井市立三川小との交流

平治元年（一一五九年）十二月二十八日、源頼朝の兄、源朝長は青墓の地で非業の死を遂げます。わずか十六歳でした。青墓に葬られましたが、のちに平氏によって京の都でさらし首となります。不憫に思った朝長の家来大谷氏が、出身地の静岡県袋井市に持ちかえり手厚く葬りました。現在もお墓は、袋井市友永の積雲院と大垣市青墓の円興寺にあります。この朝長の縁により、平成五年から袋井市立三川小学校と本校は毎年交流を重ねています。今年で二十三回目となりました。また、命日である十二月二十八日には円興寺で十六回の鐘をつく行事も行われています。

三川小学校との交流
三川小学校の子と名刺交換をしてあいさつする子どもたち。

三川小学校との交流
袋井市にある積雲院にて朝長公の墓について住職から説明を聞く子どもたち。

ふるさとカルタとふるさと大垣科

大垣市では平成二十七年度より「ふるさと大垣科」の授業が始まりました。ふるさと大垣について系統的に学び、全校で俳句にも取り組んでいます。また、学年によるテーマ学習をしています。三年生は「ふるさと探検」、四年生は「水の都大垣」、六年生は「わがふるさと自慢」です。

本校でも大垣市全体のことを学びながら、ふるさと青墓についても学んでいます。PTAの方々から、ふるさとを学ぶのに、親しみを持って取りかかりやすいカルタを作成してはどうかという提案がありました。子どもたちや保護者、地域の方々から読み札や絵札のことばや絵を募り、青墓ふるさとカルタを作成しました。授業参観では、このカルタを実際につかってカルタ取りを行いました。保護者のみならず地域の方も参加してくださり、楽しみながら地域の歴史に触れるよい機会となりました。

ふるさとカルタ
地域を題材に作ったカルタを地域の皆さんと一緒に楽しむ子どもたち。

三川小学校との交流
三川小学校の子たちと一緒に給食を楽しむ子どもたち。

三川小学校との交流
青墓小学校に三川小学校の子を招待。

ふるさと大垣科
句会ライブで俳句の作り方を学ぶ子どもたち。

ソフトボールクラブ

主将　中垣 乃彩

「一意専心」の合い言葉のもと、チーム10人の心をつなぎ練習に励んでいます。指導者の皆さんの教えや保護者の支えに対する感謝の気持ちを大切にし、それをプレーで表そうとがんばっています。

陸上部

部長　楢木 春紀

仲間と共に少しでも自己記録が更新できることを目標にし、自分でよく考え、進んで力を出し切り、声を掛け合いながら、感謝・礼儀・継続を大切にして活動をしています。

吹奏楽部

部長　三井 梓紗

私たち吹奏楽部は部長を中心に28名で「音の和は人の和」をモットーに活動しています。今年は目標であった東海大会出場を達成しました。

卓球部

部長　小板 彩来

目標は「人間力の向上」です。特に返事や礼儀、挨拶を大切にしています。日頃から卓球の技術だけでなく仲間や支えてくださる人に感謝すること、素早く反応して動くことを心がけて人間力をみがいています。

剣道部

部長　中田 大晴

団体戦での県大会出場、個人戦では前年度よりも1つでも上位の大会を目指し、苦しいときでも大きな声を出して稽古に励んでいます。

サッカー部

部長　溝口 尋大

常に「県大会出場」を目標にして活動しています。仲間と声やボールをつなぎ、積極的にゴールを目指すことを大切にしています。今年は市大会で優勝しました。

野球部

部長　福井 伶旺

僕たち野球部は「全力疾走・全力発声」をモットーに地区大会優勝を目指し日々練習に励んでいます。日頃から自分たちを支えてくださるコーチや先生、育成会の方々への感謝を忘れずに突き進みます。

ソフトテニス部

部長　横川 來実

私たちソフトテニス部は、気持ちよい挨拶や返事をすること、自分から進んで動くこと、感謝の心を大切に日々活動しています。仲間と声を掛け合い、共に技術と心を磨いています。

バスケットボール部

部長　西谷 梓

練習で苦しい時こそ、部員全員で大きな声を出し合い、日々の練習に励んでいます。県大会出場を目標に、毎日の練習を大切にして頑張ります。

情報部

部長　林下 誉

情報部は、一人ひとりが自分の目標に向かって一生懸命に取り組むことを大切に活動しています。「一生懸命はかっこいい！」をモットーに毎日頑張っています。

スキー部

部長　谷口 泰治

新入部員1名を加え4人となりました。県大会上位入賞、そして全国大会出場を目指し支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、頑張ります。

私たちのPTA

川辺町立川辺西小学校ＰＴＡ

平成二十八年度ＰＴＡテーマ

子どもと共に成長を

子どもたちの成長における小学校生活の六年間は、非常に重要な期間であると同時に、私たち保護者も親として成長する期間だと考えます。ＰＴＡ活動を通して、今一度、子どもたちと向き合い、共に成長しようと考えています。

学校紹介

川辺西小学校は、明治六年に貫誠舎を中川辺に創立したのが始まりで、歴史ある学校です。全校児童数は二六四名、素直で明るく、何事にも一生懸命取り組みます。職員は二十五名、熱心で子どもたちが大好きです。保護者は教育熱心でＰＴＡ行事への参加率も高いです。地域は学校に大変協力的で、学校行事や登下校の安全等、多くを支えていただいています。

グランドには、大きなせんだんの木があります。その高さは三階建ての校舎とほぼ同じで、学校のシンボルとなっています。

ＰＴＡ活動

川辺西小学校ＰＴＡの組織は、本部役員会を中心に、四つの専門委員会と各学年委員会、家庭教育学級、地区委員会とに分かれています。それぞれが川辺西小学校のために、内容を工夫し取り組んでいます。

○本部役員会

すべての活動に関わって活動しています。学校と情報を交流し、それを生かして、よりよい川辺西小学校づくりを目指しています。

○事業委員会

広報を年二回発行しています。先生の紹介や各学年の行事など、保護者が知りたい情報を発信しています。

親子はみがき教室

ふれあい体操

給食試食会

環境整備作業

資源回収

○環境委員会

環境整備作業と資源回収を行っています。環境整備作業では、教室のすすはらい、本格的なトイレ掃除、窓ふき、草引き、樹木の剪定、子どもたちが普段できないことを行います。

資源回収は、年二回（六月、一月）行っています。

○生活委員会

親子料理教室と生活チェックを行っています。親子料理教室は、川辺町食生活改善推進協議会の皆様にご協力いただき、夏休みに行います。親子で料理を楽しみます。

○安全対策委員会

通学路の危険箇所の点検を行って、町に改善要望を提出しています。全ての保護者対象に危険箇所のアンケートを行い、安全対策委員会で町へ提出する要望箇所を決定します。町、県の担当職員とともに現地を視察します。何点か改良していただきました。

○地区委員会

資源回収を行っています。地域のリーダーとして、資源回収仕事分担のコーディネートをしています。

○家庭教育学級

ＰＴＡを中心に、家庭教育について、保護者自らが学ぶ場として活動しています。親子はみがき教室、給食試食会、ふれあい体操を実施しています。

○学年委員会

学年ごとに親子活動を行います。参加率がとても高く、子どもたちも大変楽しみにしています。親子レクリエーション（ドッジボール）、親子しいたけ菌うち体験としいたけ収穫祭、二分の一成人式、親子百人一首大会、親子レクリエーション（スポーツ吹き矢）を企画しています。

親子レクリエーション（ドッジボール）

しいたけ菌うち、しいたけ収穫祭

二分の一成人式

親子レクリエーション（スポーツ吹き矢）

百人一首大会

がんばる子らの
汗と笑顔と眼差しと

岐阜市立則武小学校

あいさつタッチ

毎朝校門付近では、あいさつタッチの列ができ、さわやかなあいさつの声がこだまします。

もくもく掃除

「黙ってもくもく掃除」を合い言葉に、20分間集中して取り組みます。則武小のよき伝統となっています。

プラスワン活動

「あいさつタッチ」「もくもく掃除」とともに、則武小学校の3つの自慢として、全校で取り組んでいます。

仲間と考えを練り合う授業

仲間とともに考えを練り合う協働学習を、授業の中に位置づけ、考える力を高めています。

則武夏祭り

今年度から5・6年生が夏祭りの出店運営に参加しました。地域活動への参画意識を育んでいます。

則武特産の大根作り体験

地域への愛着心を育むことを願い、地域の生産者の方を講師にお招きし、特産品の大根作りに挑戦しています。

わが子のあゆみ

2016.11 No.445 初冬号
第68巻3号

発行 ： 岐阜県PTA連合会
〒500-8824　岐阜市北八ツ寺町7　岐阜県校長会館内
編集 ： 岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価 ： 200円　年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058（262）3257
県PTA連合会事務局へ